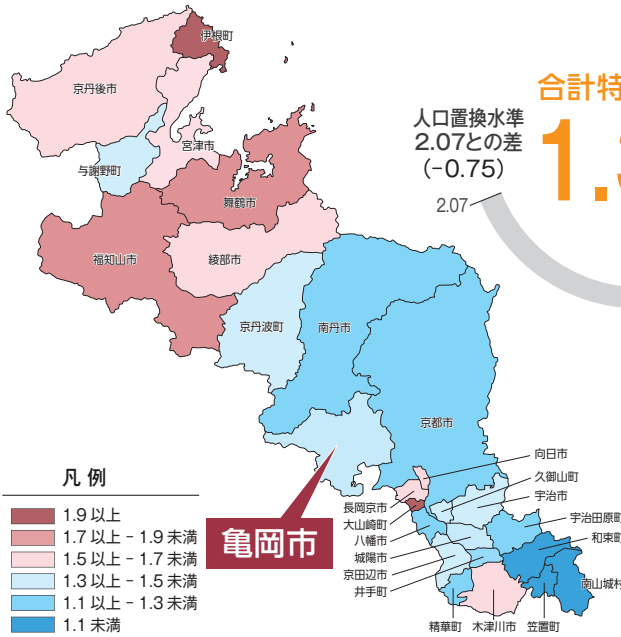
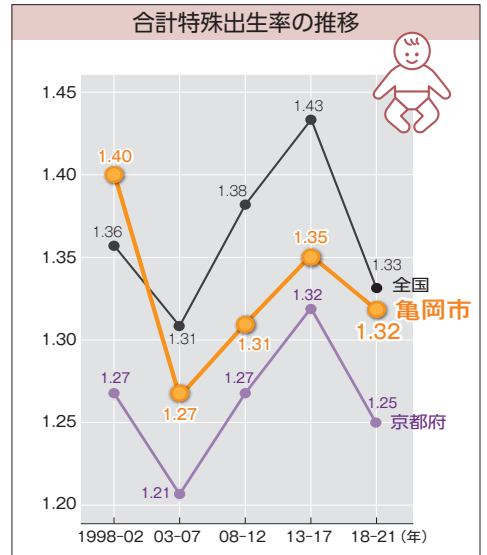


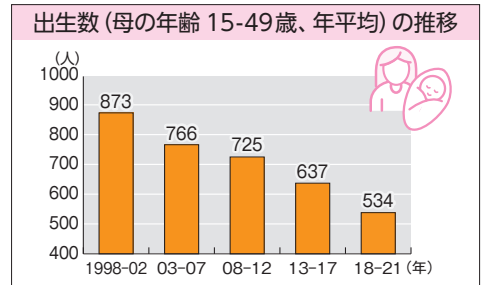
合計特殊出生率
(2018-2021年)



合計特殊出生率の推移



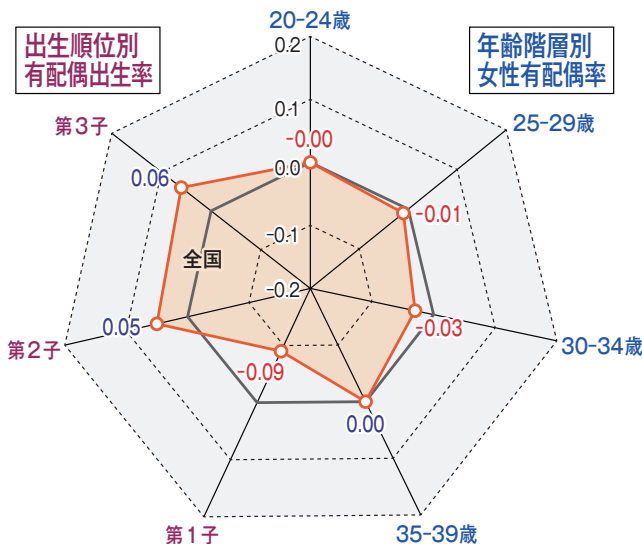
出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



- 2018-21年の亀岡市の合計特殊出生率は1.32と算出され、全国値をわずかに0.01ポイント下回り、人口置換水準との差は-0.75ポイントに達します。
- 概ね府全体の出生率を上回って推移しています。

● 実態の見える化

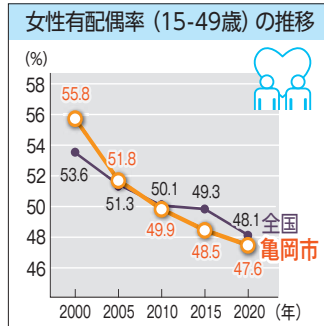
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



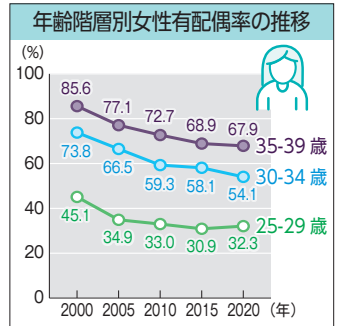
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 出生構造をみると、20歳代の女性有配偶率が全国をやや下回り、全国よりも晩婚化が進んだ地域とみられます。一方で、有配偶出生率は第2子、第3子が高く、出生率が高い地域にみられる特徴が表れています。
- 結婚が遅い地域ですが、第2子、第3子の出生にプラスに影響する子育て環境があると考えられます。

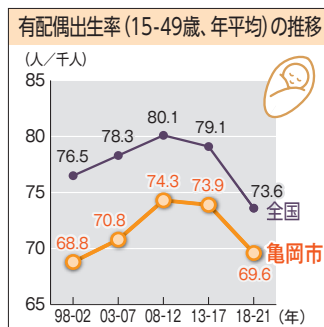
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

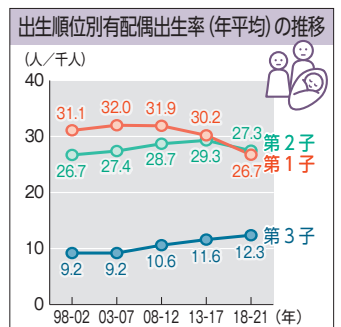


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

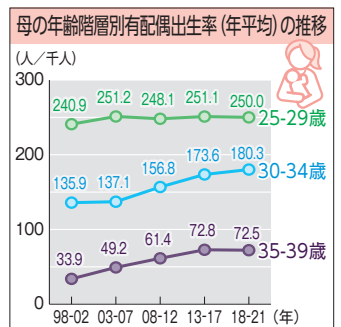


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

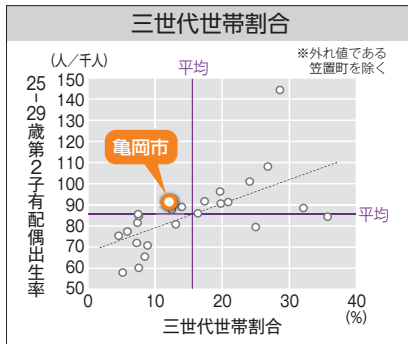
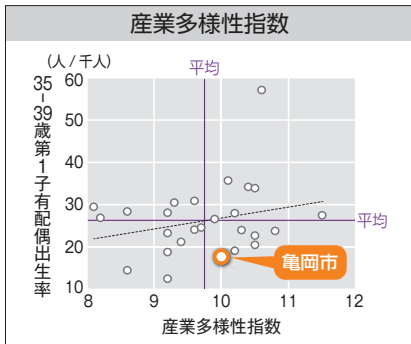
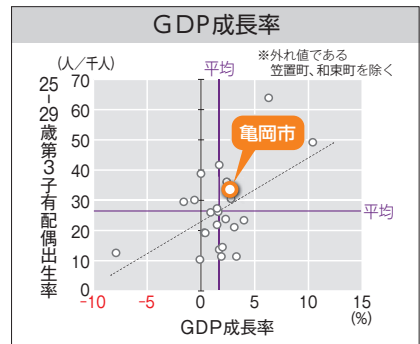
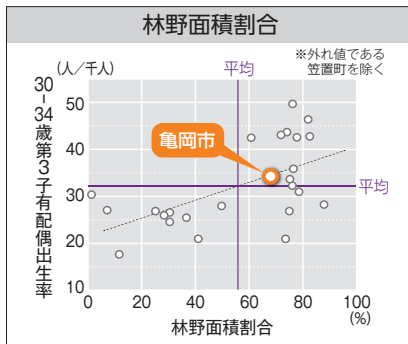
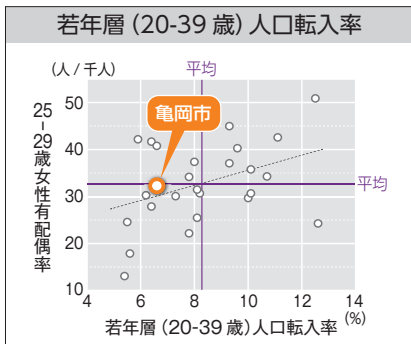
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、亀岡市は、全般に市町村平均に近い値をしています。その中で、若年層 (20-39 歳) 人口転入率 (住宅環境 (結婚・第1子まで))、三世帯世帯割合 (子どもの頃の経験) が平均を下回り、林野面積割合 (外遊び環境)、産業多様性指数 (産業・職業の多様性) 等が平均より高いことがわかります。

(注) 括弧の中は評価分野

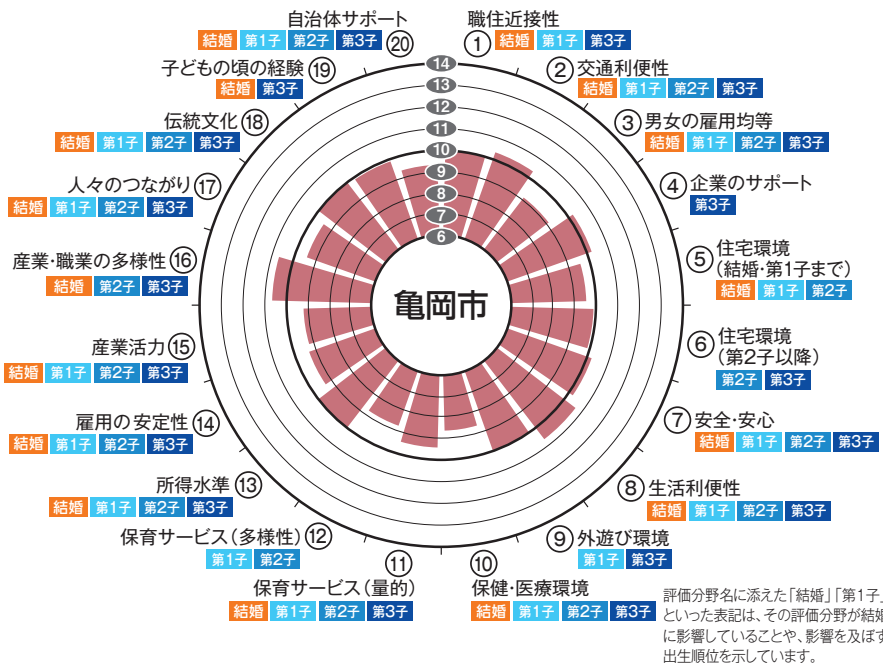
(注) 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

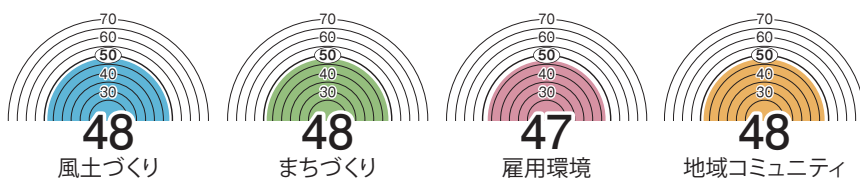
結婚・子育て環境バーチャート (評価分野のスコア、市町村平均=10)

京都・子育てにわたる環境づくり目標 Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとともにゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切に
⑲ 子どもに豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)

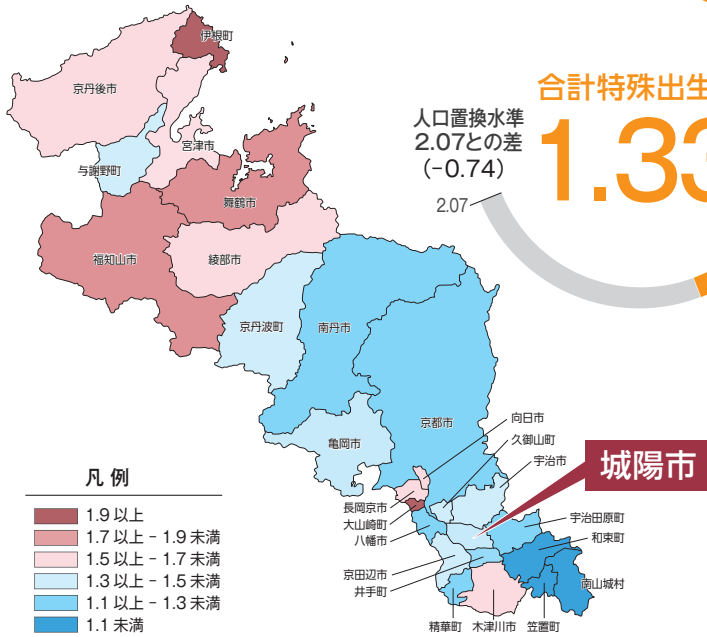


- 多くの評価分野が市町村平均に近いスコアになっています。府全体の出生率が低いことを考えると、子育て環境において他の市町村と共通する課題が多いことを示しています。
- その中で、⑪、⑫の保育サービス関連のほか、⑭、⑮の産業関連の指標、⑰人々のつながり等のスコアが平均を下回ります。一方、⑯産業・職業の多様性が高く、⑬所得水準が概ね平均的であること、また、⑦安全・安心、⑧生活利便性のスコアも比較的高いことなどが第2子、第3子の出生率が全国値を上回ることにつながっていると考えられます。

城陽市

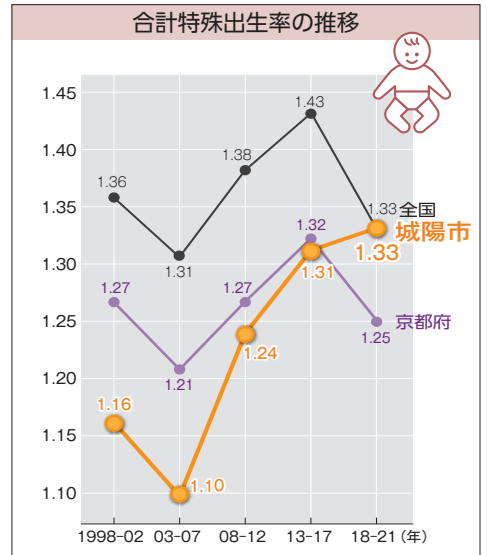
● 出生率の概要

合計特殊出生率
(2018-2021年)

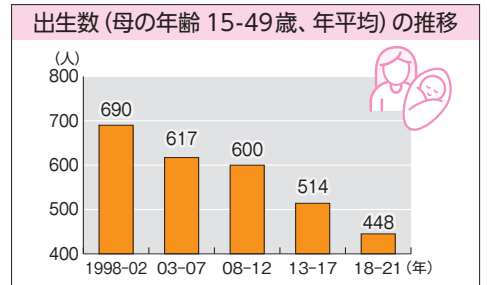


- 2018-21年の城陽市の合計特殊出生率は1.33と算出され、全国値と同水準で、人口置換水準との差は-0.74ポイントに達します。
- 2003-07年の出生率は府全体を下回り-0.11ポイントの差がありましたが、2018-21年は逆に府全体を0.08ポイント上回りました。府内でも出生率が大きく上昇した地域の一つです。

合計特殊出生率の推移

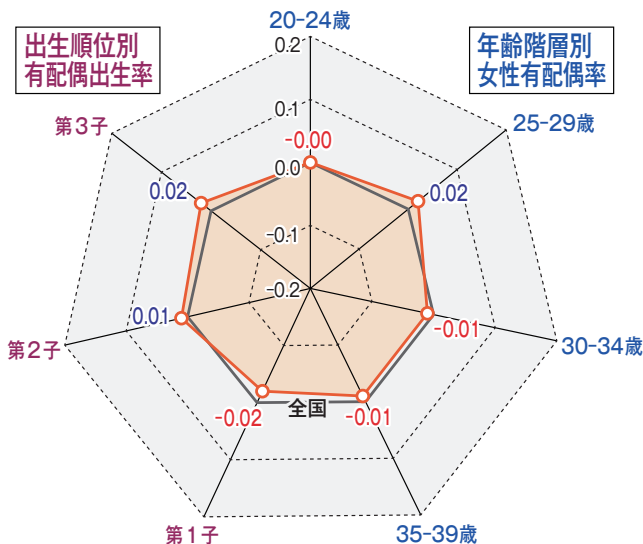


出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



● 実態の見える化

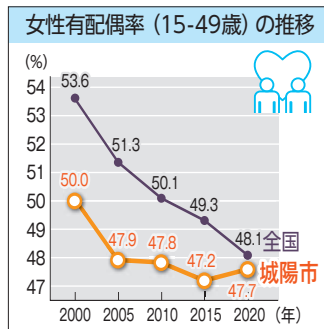
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



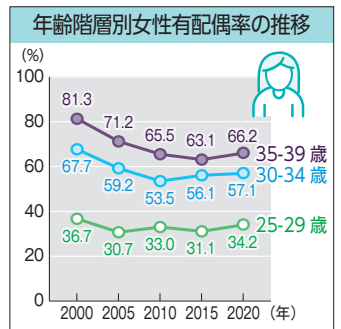
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 出生構造をみると、女性有配偶率は20歳代も30歳代も全国とほぼ同程度となっています。また、どの出生順位も有配偶出生率は全国と同程度にとどまっています。
- 近年の合計特殊出生率の上昇は30-34歳や35-39歳の有配偶出生率の上昇が寄与したとみられます。

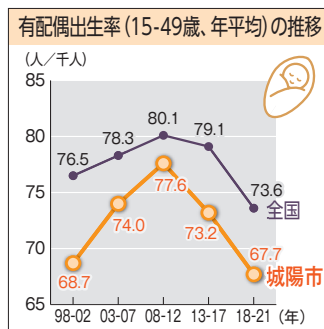
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

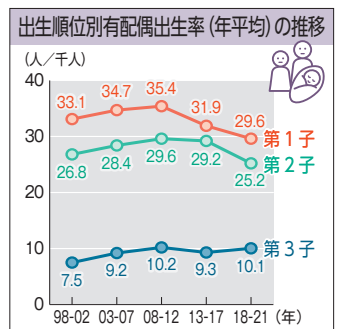


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

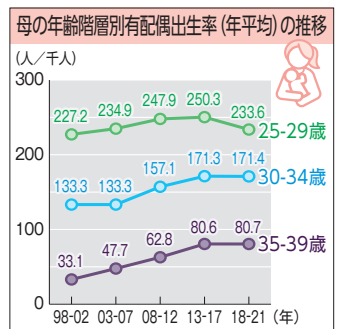


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

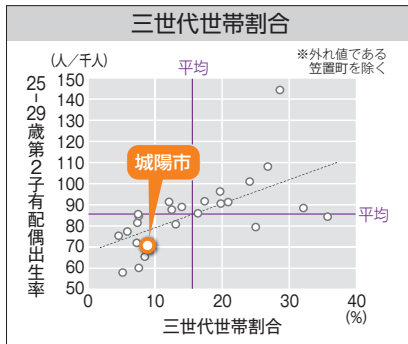
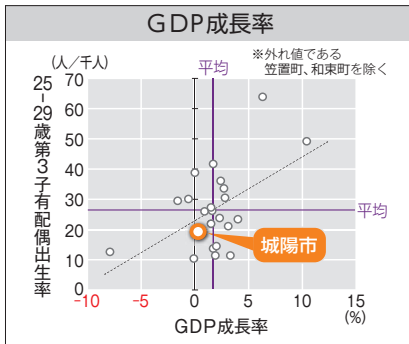
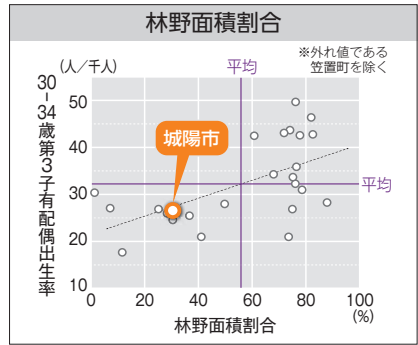
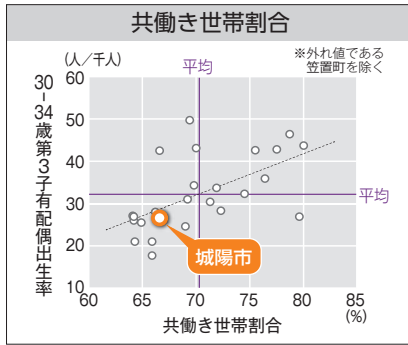
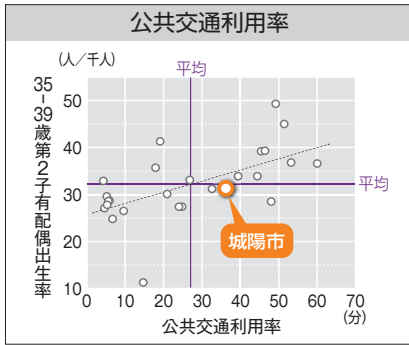
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化

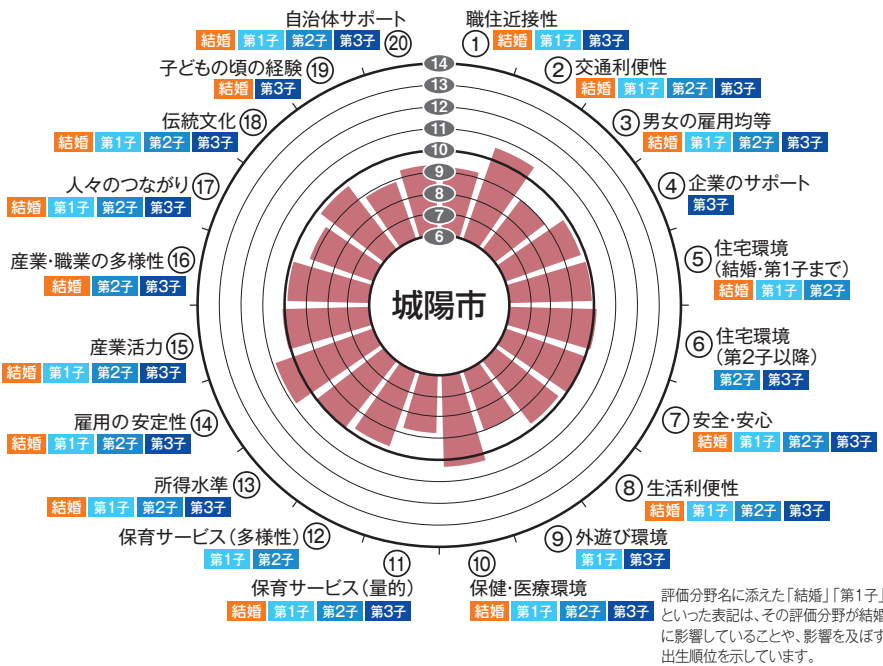


● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、共働き世帯割合（男女の雇用均等）、林野面積割合（外遊び環境）、三世代世帯割合（子どもの頃の経験）等が平均以下である様子がわかります。公共交通利用率（交通利便性）は、平均値を上回ります。
(注) 括弧の中は評価分野

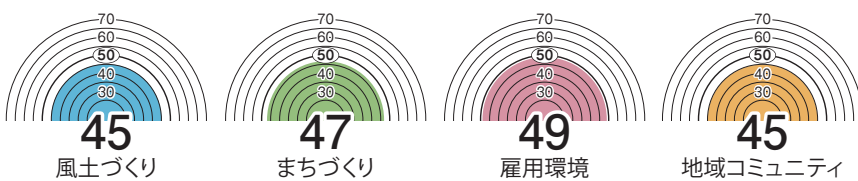
(注) 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

結婚・子育て環境バーチャート
(評価分野のスコア、市町村平均=10)



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)

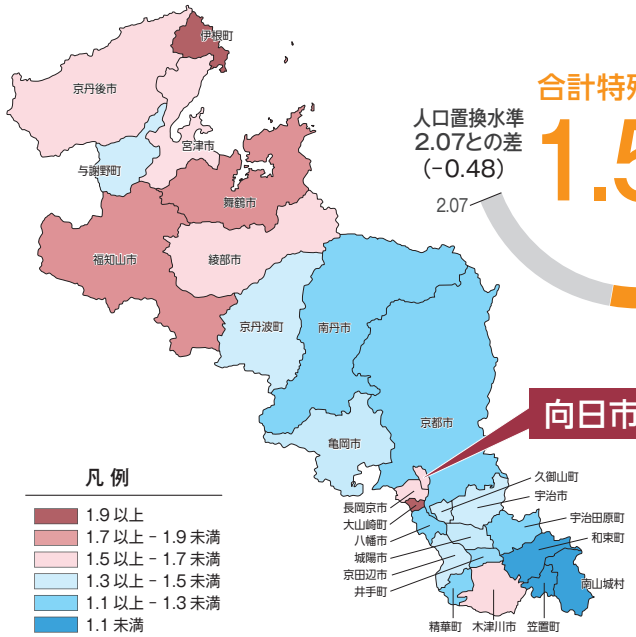


京都・子育てにわたる環境づくり目標
Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

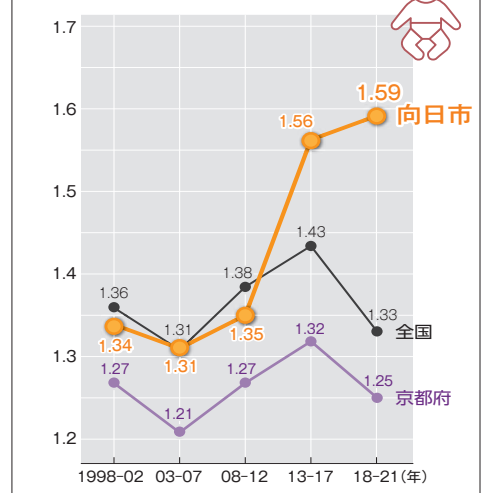
① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとともにゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切に
⑲ 子どもに豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す

- ①職住近接性はスコアが低く、②交通利便性が高いという、市外への通勤者が多い住宅都市の特徴が表れています。加えて、⑥住宅環境（第2子以降）と⑩保健・医療環境が平均をやや上回り、⑬から⑯の産業関連の評価分野は平均的です。
- 一方で、⑰から始まる地域コミュニティ関連の評価分野は市町村平均を下回っており、出生率にマイナスの影響を及ぼしていると考えられます。

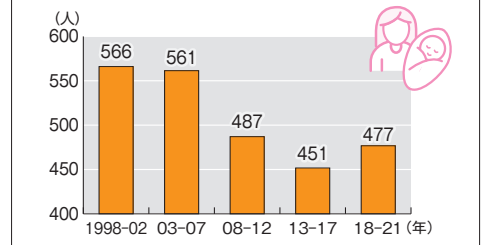
合計特殊出生率
(2018-2021年)



合計特殊出生率の推移



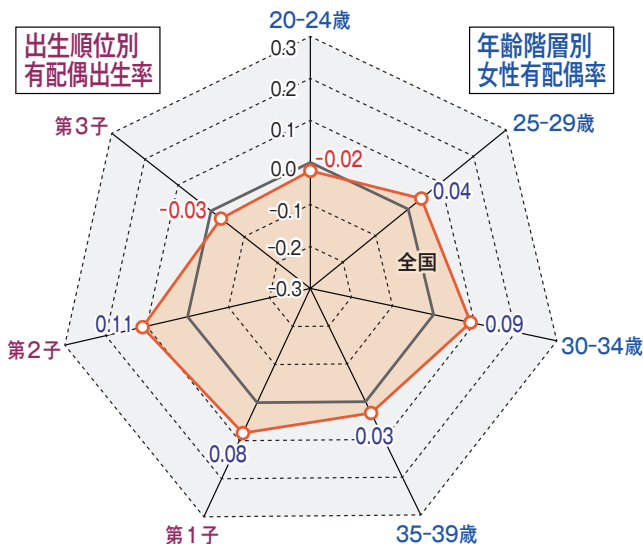
出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



- 2018-21年の向日市の合計特殊出生率は1.59と算出され、全国値を0.26ポイント上回りますが、人口置換水準との差は-0.48ポイントに達します。
- 2008-12年の出生率は全国を下回っていましたが、その後、向日市の出生率は大きく上昇しました。2008-12年から2018-21年の上昇は府内でも有数の大きさです。

● 実態の見える化

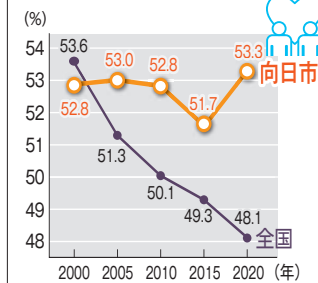
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



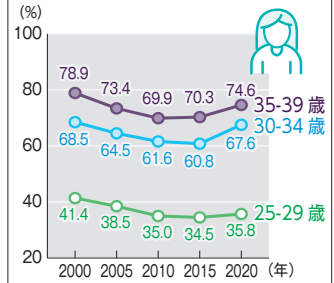
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 出生構造をみると、20歳代後半から30歳代の女性有配偶率が全国値を上回ります。また、第1子と第2子の有配偶出生率が全国値を大きく上回ります。
- 女性有配偶率が全国と異なり概ね横ばいを維持していることや、有配偶出生率が全国を上回ったことが、近年の合計特殊出生率の上昇に寄与したとみられます。

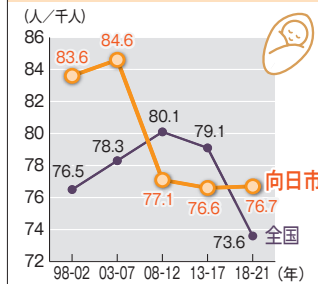
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

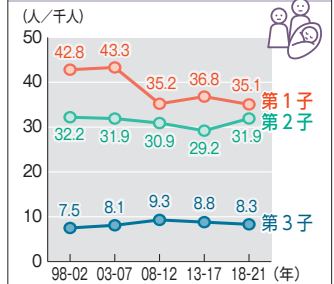


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

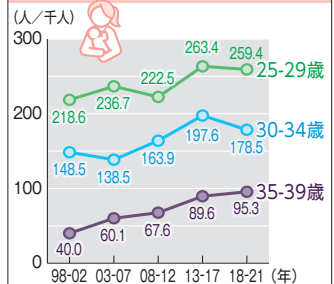


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

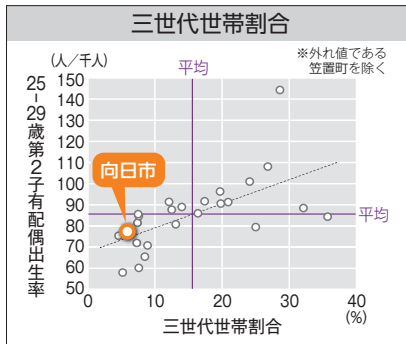
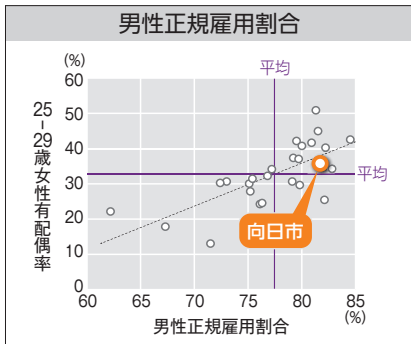
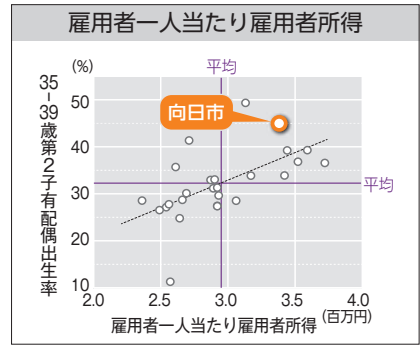
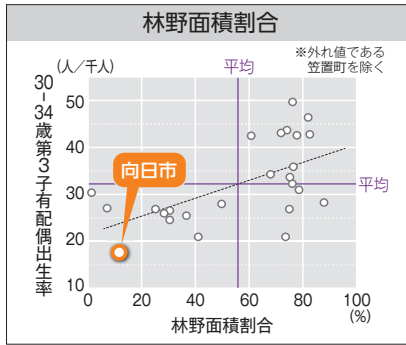
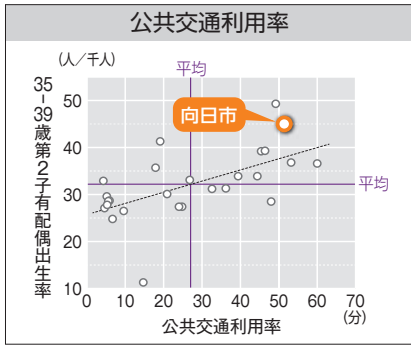
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



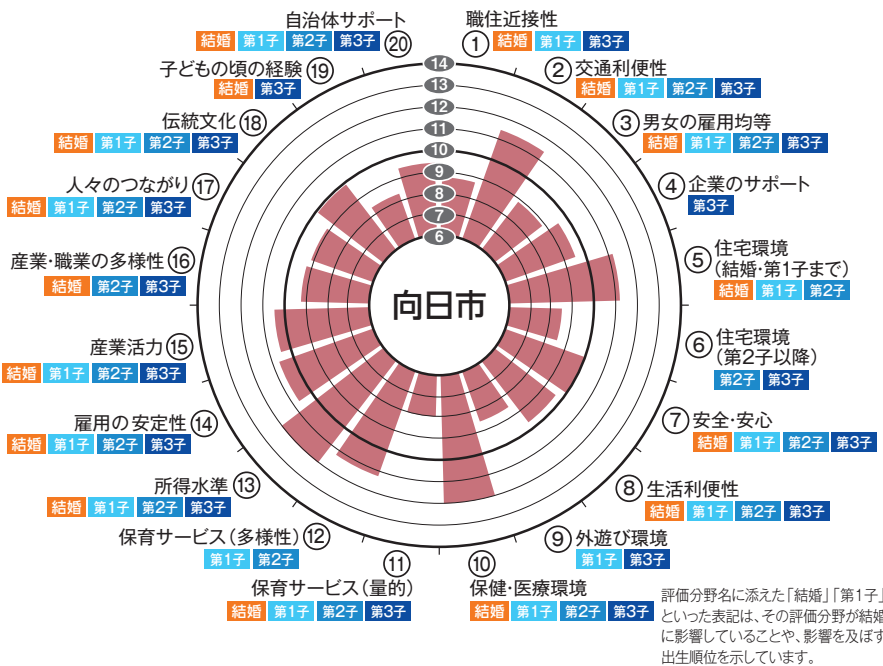
● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、林野面積割合（外遊び環境）と三世帯世帯割合（子どもの頃の経験）が平均を下回ります。一方で、公共交通利用率（交通利便性）、雇業者一人当たり雇業者所得（所得水準）、男性正規雇用割合（雇用の安定性）が平均よりも高くなっている様子がわかります。

（注）括弧の中は評価分野

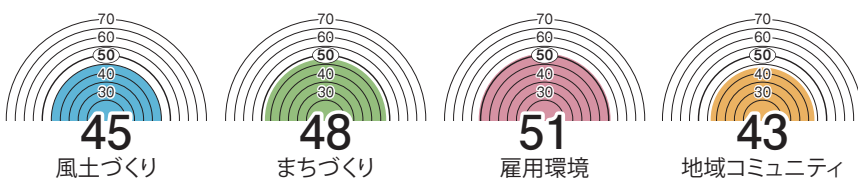
（注）図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

結婚・子育て環境バーチャート
（評価分野のスコア、市町村平均=10）



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



京都・子育てにわたる環境づくり目標
Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

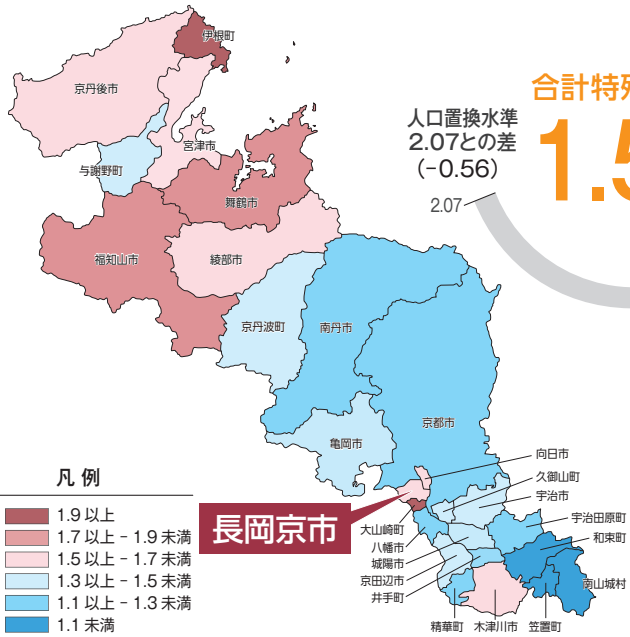
① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとともにゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切に
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す

- ⑤住宅環境（結婚・第1子まで）のスコアが高く、若い夫婦の居住地として選ばれている状況が推察されます。このことは出生構造の特徴と一致します。その背景になることも考えられますが、②交通利便性、③所得水準、④雇用の安定性のスコアが高いことが、結婚や第1子・第2子の出生率にプラスの影響を及ぼしていると考えられます。
- また、⑩保健・医療環境が際立って高い値を示しています。その反面、⑭人々のつながり、⑯子どもの頃の経験といった地域コミュニティ関連のほか、③男女の雇用均等や⑥住宅環境（第2子以降）、⑨外遊び環境、⑪保育サービス（量的）は平均値をかなり下回り、子育て環境の優位点と課題がはっきりと分かれていることが特徴です。

長岡京市

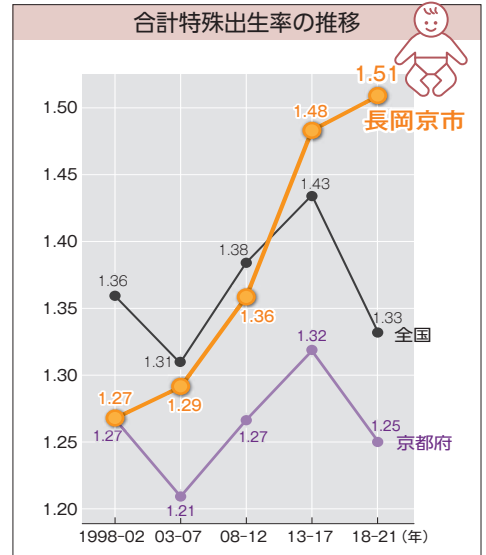
● 出生率の概要

合計特殊出生率
(2018-2021年)

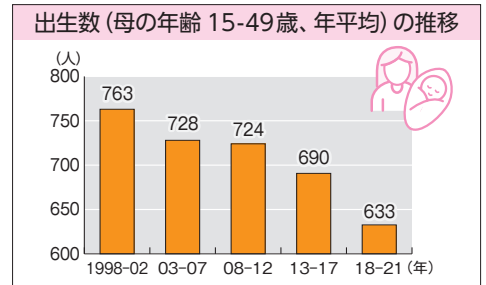


- 2018-21年の長岡京市の合計特殊出生率は1.51と算出され、全国値を0.18ポイント上回りますが、人口置換水準との差は-0.56ポイントに達します。
- 推移をみると、2003-07年の長岡京市の出生率は全国を下回っていましたが、2008-12年から2013-17年にかけて大きく上昇しました。

合計特殊出生率の推移

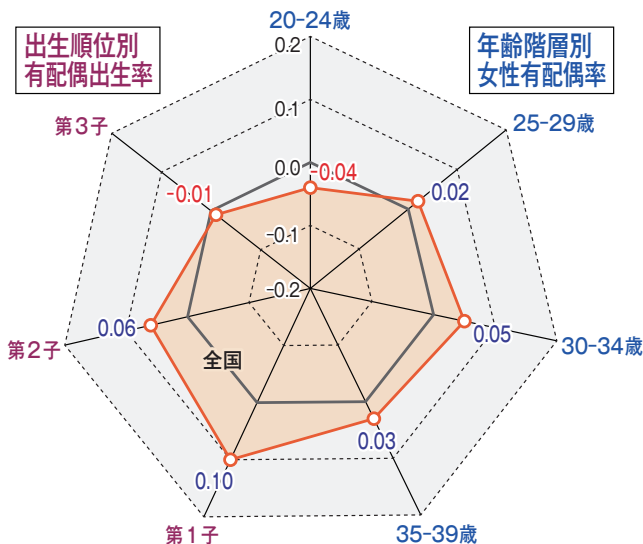


出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



● 実態の見える化

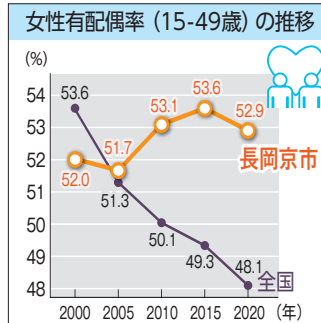
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



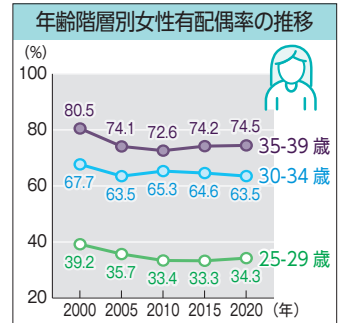
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 出生構造をみると、25-29歳から女性有配偶率が全国値を上回るようになります。また、第1子と第2子の有配偶出生率が全国値よりも高くなっています。
- 30歳代での結婚が多く、30歳代の女性有配偶率が上昇傾向にあったことが、第1子と第2子の有配偶出生率にプラスに寄与したと考えられます。

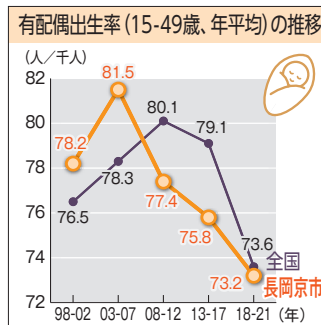
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

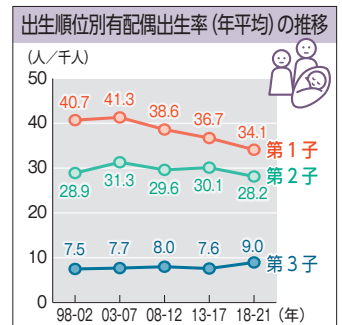


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

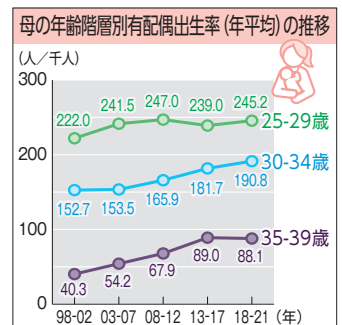


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

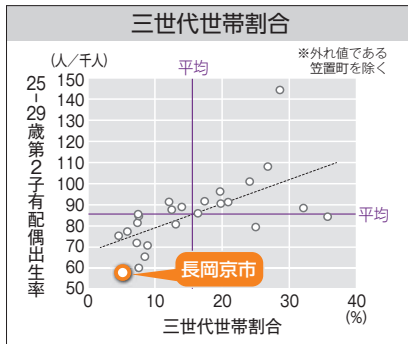
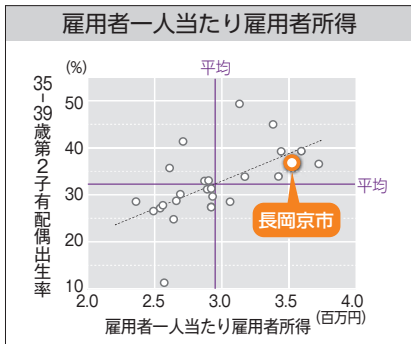
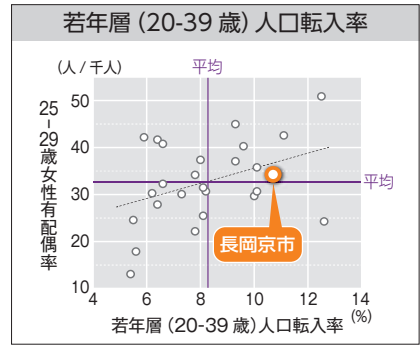
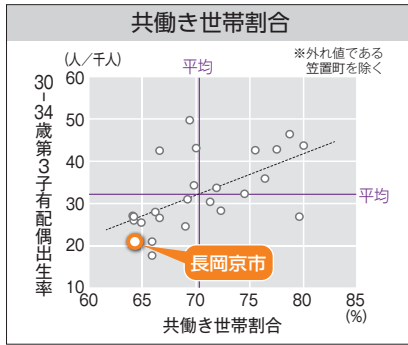
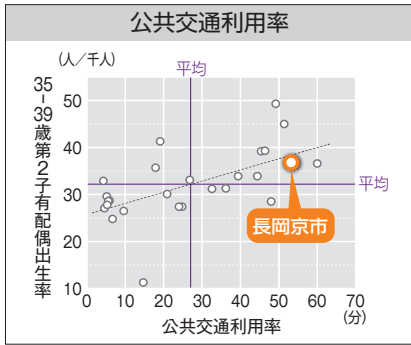
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、共働き世帯割合（男女の雇用均等）、三世代世帯割合（子どもの頃の経験）が平均値より低くなっています。一方で、公共交通利用率（交通利便性）、若年層（20-39歳）人口転入率（住宅環境（結婚・第1子まで）、雇用者一人当たり雇用者所得（所得水準）が平均を上回っている様子がわかります。

（注）括弧の中は評価分野

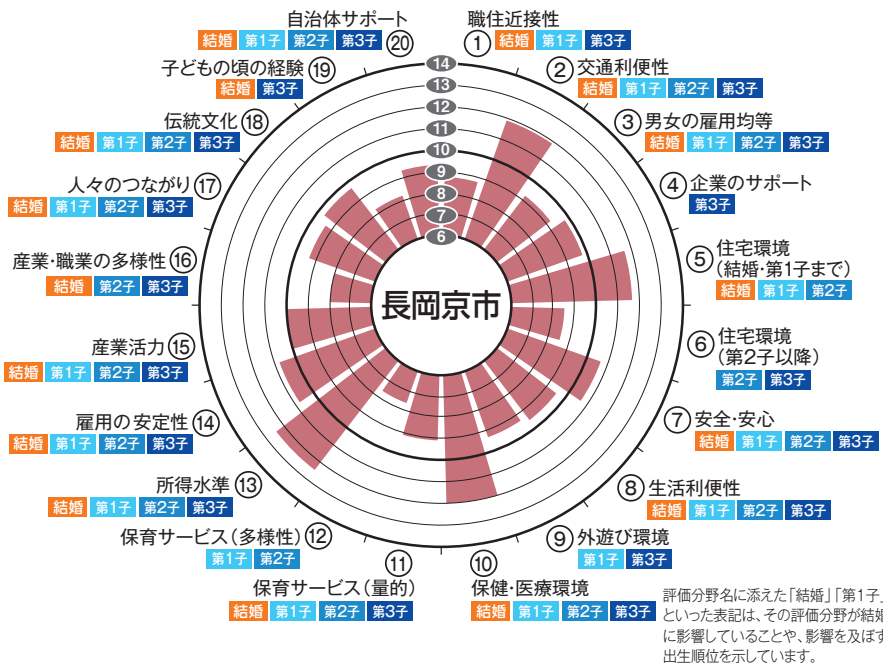
（注）図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

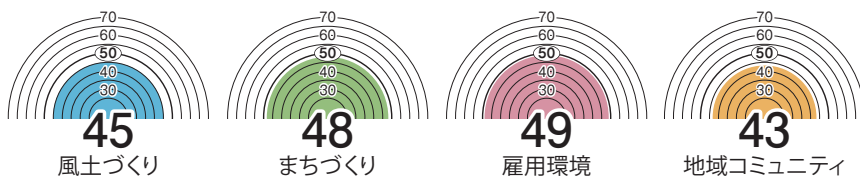
結婚・子育て環境バーチャート
（評価分野のスコア、市町村平均=10）

京都・子育てにわたる環境づくり目標
Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとともにゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切に
⑲ 子どもに豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)

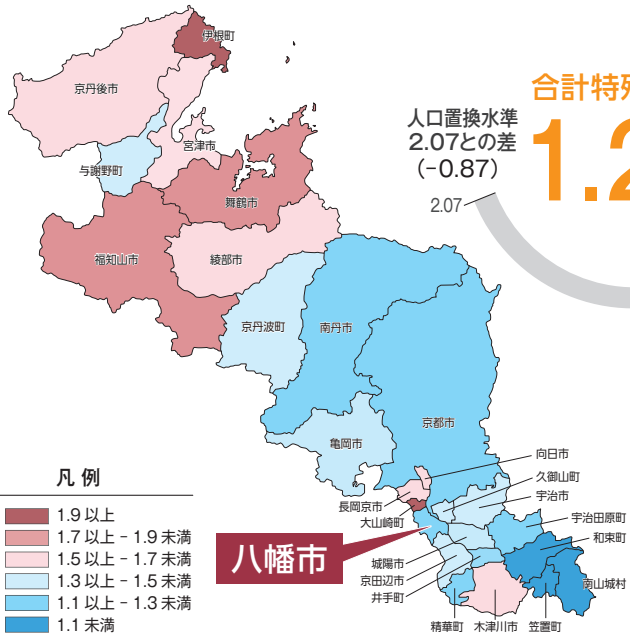


- ②交通利便性、⑤住宅環境（結婚・第1子まで）、⑩保健・医療環境、⑬所得水準、⑭雇用の安定性のスコアが高いところは、乙訓地域に共通した特徴になっています。子育て世帯の居住地として選ばれていることが、結婚や第1子・第2子の出生率にプラスの影響を及ぼしていると考えられます。
- また、子育て環境の優位点と課題がはっきりと分かれていることも乙訓地域の特徴です。⑰人々のつながり、⑲子どもの頃の経験といった地域コミュニティ関連、③男女の雇用均等や⑥住宅環境（第2子以降）、⑨外遊び環境、⑪と⑫の保育サービス関連が平均値を大きく下回り、産業関連の中では⑮産業・職業の多様性が低スコアです。

八幡市

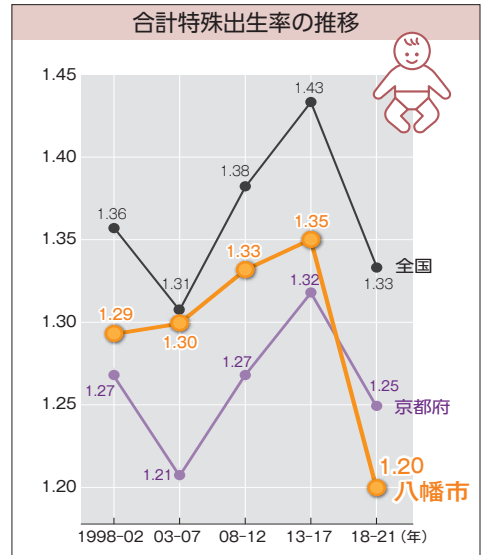
● 出生率の概要

合計特殊出生率
(2018-2021年)

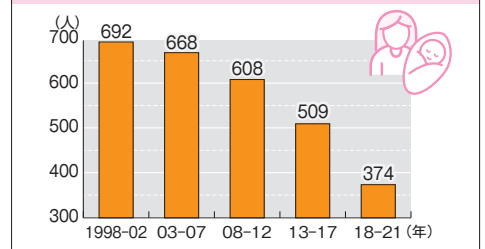


- 2018-21年の八幡市の合計特殊出生率は1.20と算出され、全国とは-0.13ポイントの差が生じています。また、人口置換水準との差は-0.87ポイントに上ります。
- 2003-07年の出生率は全国とほぼ同じ水準にありましたが、それからの上昇が小さく、2013-17年から2018-21年にかけて大きな低下となりました。

合計特殊出生率の推移

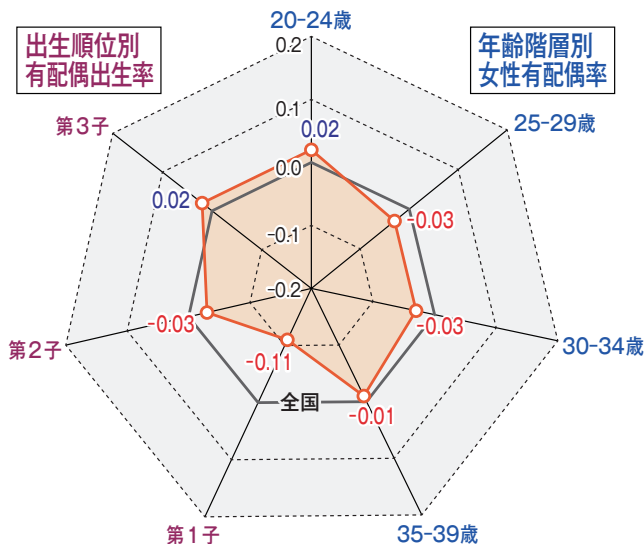


出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



● 実態の見える化

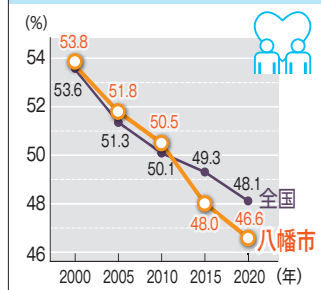
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



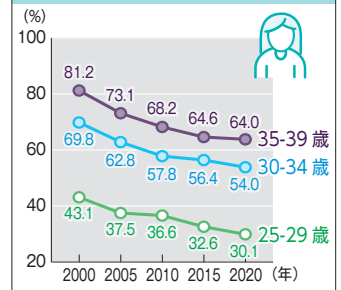
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 出生構造をみると、20歳代後半から30歳の女性有配偶率が全国を下回ります。そうした中で、第1子と第2子有配偶出生率が全国値を下回ります。
- 2010年までの女性有配偶率は全国と同程度の低下を示していましたが、2015年は大きな低下になりました。また、25-29歳と30-34歳の有配偶出生率があまり上昇しなかったことが、現在の出生率の低さにつながっているとみられます。

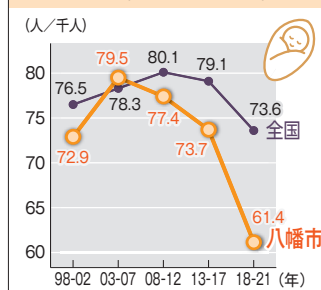
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

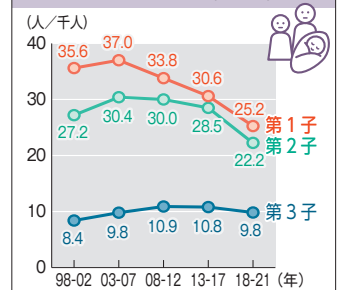


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

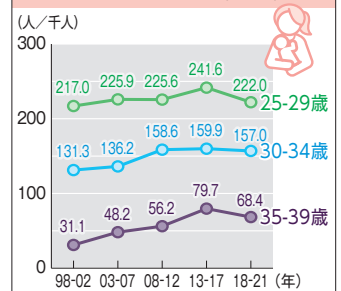


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

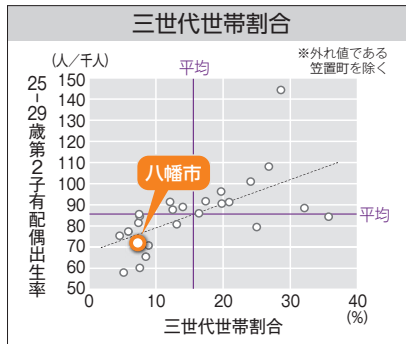
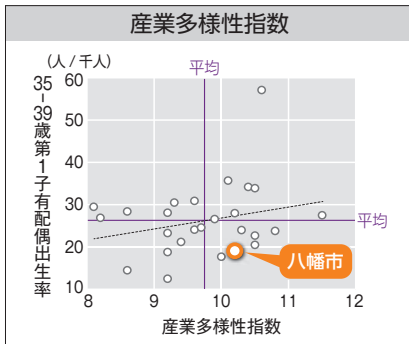
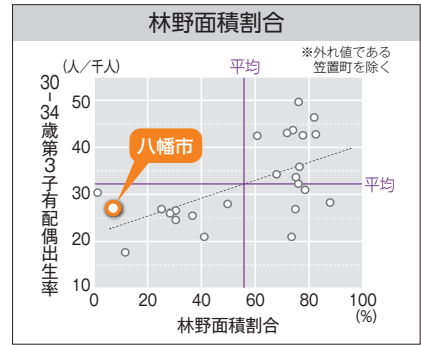
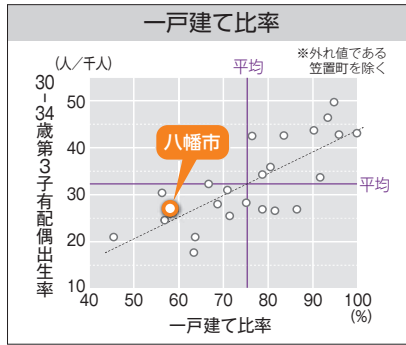
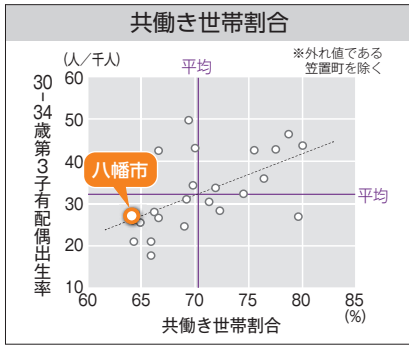
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



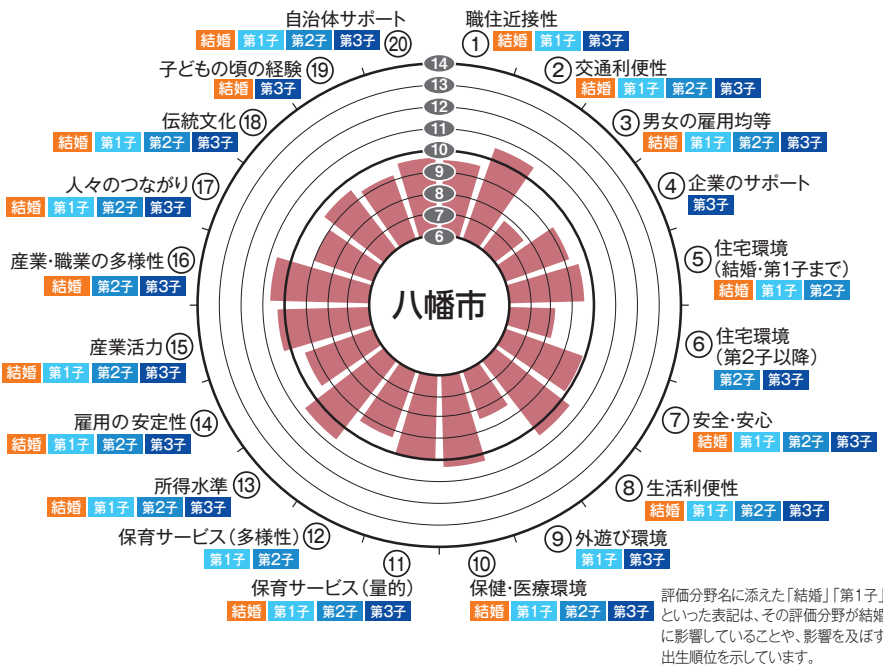
● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、産業多様性指数（産業・職業の多様性）が平均値を上回る一方、共働き世帯割合（男女の雇用均等）、一戸建て比率（住宅環境（第2子以降））、林野面積割合（外遊び環境）、三世代世帯割合（子どもの頃の経験）が平均値を大きく下回っている様子がわかります。

（注）括弧の中は評価分野

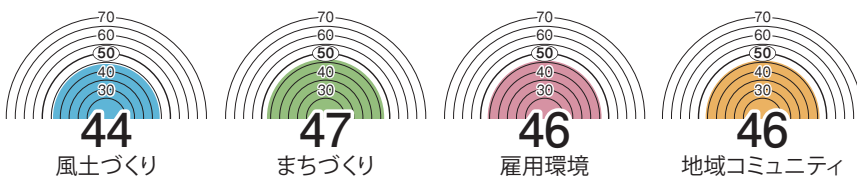
（注）図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

結婚・子育て環境バーチャート
（評価分野のスコア、市町村平均=10）



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



京都・子育てにわたる環境づくり目標
Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

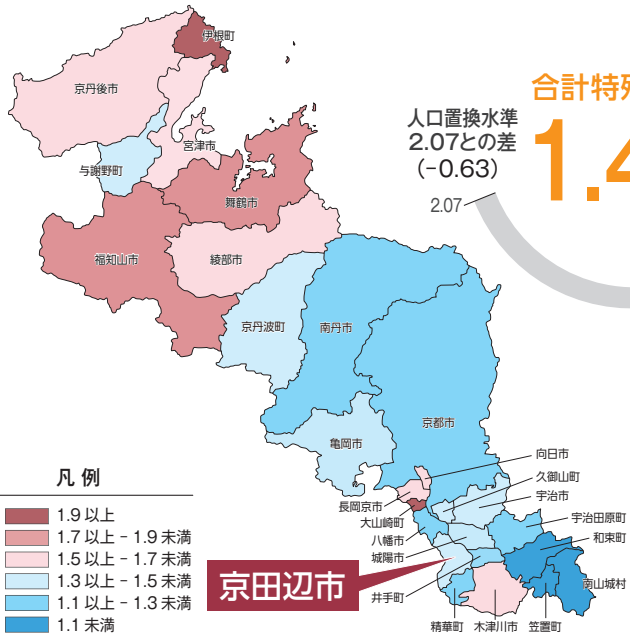
① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切に
⑲ 子どもに豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す

- ②交通利便性、⑧生活利便性、⑩保健・医療環境、⑬所得水準、⑮産業活力、⑯産業・職業の多様性が市町村平均を上回ります。また、⑪保育サービス（量的）が平均的です。
- 一方で、⑰から始まる地域コミュニティ関連の評価分野が平均を下回る山城地域中央部の特徴が表れています。この他、③男女の雇用均等、⑥住宅環境（第2子以降）、⑨外遊び環境、⑫保育サービス（多様性）のスコアが低く、出生率にマイナスの影響を及ぼしていると考えられます。これらの多くも隣接市町村と共通しています。

京田辺市

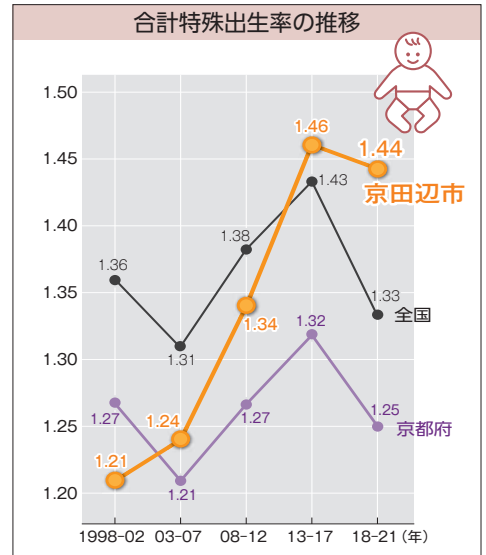
● 出生率の概要

合計特殊出生率
(2018-2021年)

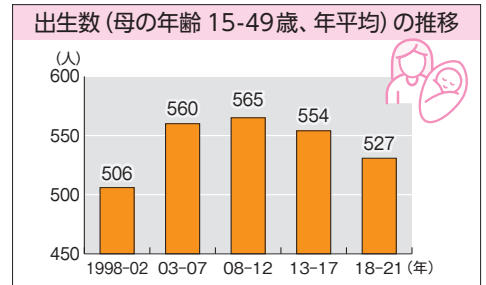


- 2018-21年の京田辺市の合計特殊出生率は1.44と算出され、全国値を0.11ポイント上回りますが、人口置換水準との差は-0.63ポイントに上ります。
- 1998-02年の出生率は全国や府全体より低い水準にありました。その後、急速に出生率が上昇し、2013-17年に全国値を超えるようになりました。2018-21年にかけての出生率の低下は全国より緩やかです。

合計特殊出生率の推移

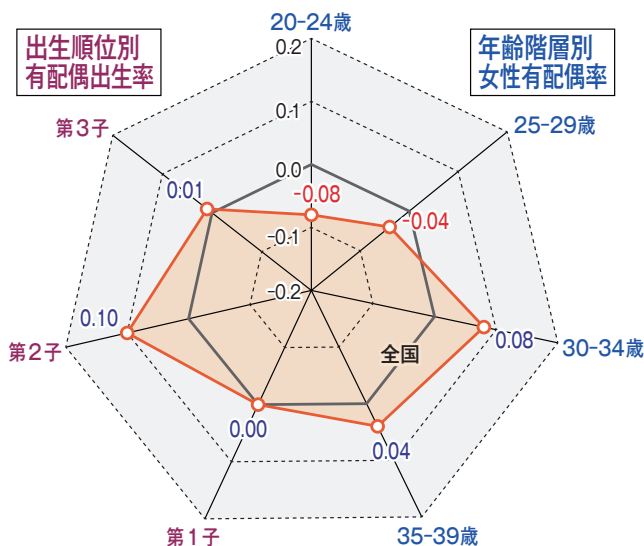


出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



● 実態の見える化

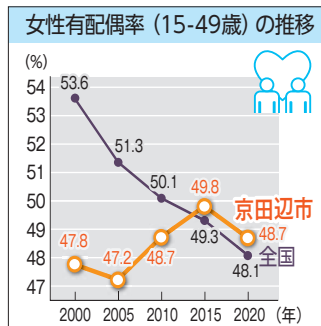
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



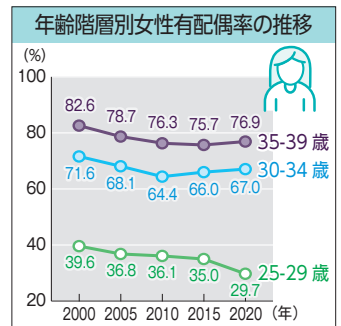
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 出生構造をみると、30歳代の女性有配偶率が全国値を上回っており、かつ、第2子の有配偶出生率が全国を大きく上回ります。その他は、20-24歳の女性有配偶率を除くと全国と同程度です。
- 京田辺市は、2010年から2015年にかけて女性有配偶率が上昇したことが大きな特徴です。また、2013-17年まで20歳代後半と30歳代で有配偶出生率の上昇傾向が続きました。

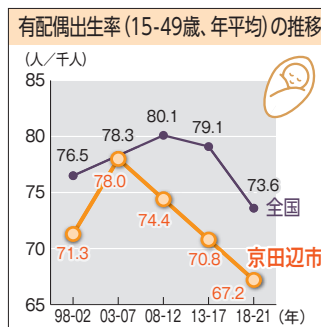
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

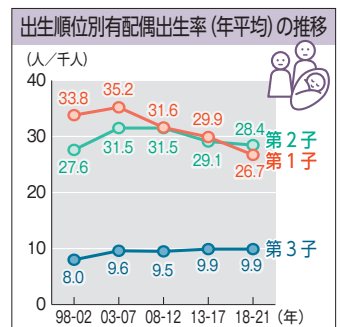


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

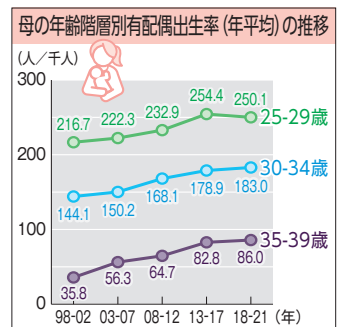


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

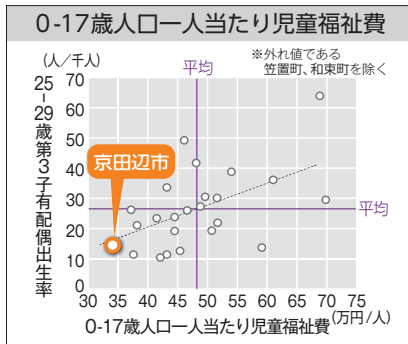
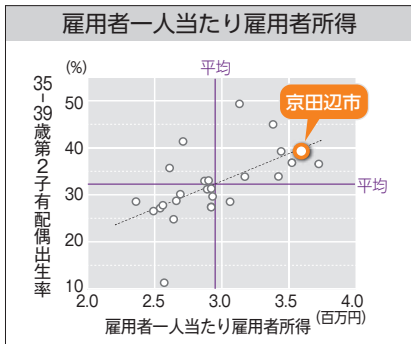
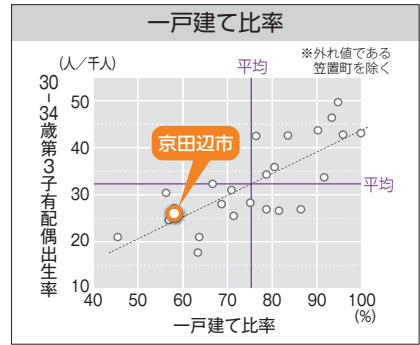
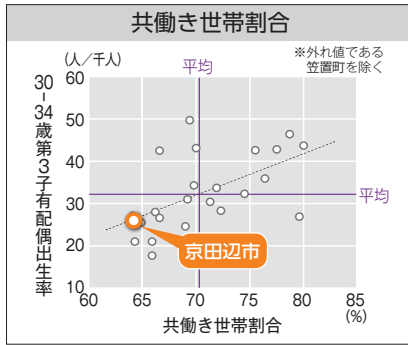
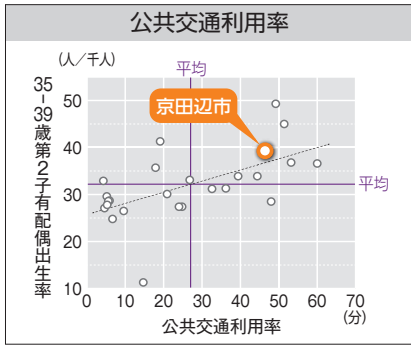
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



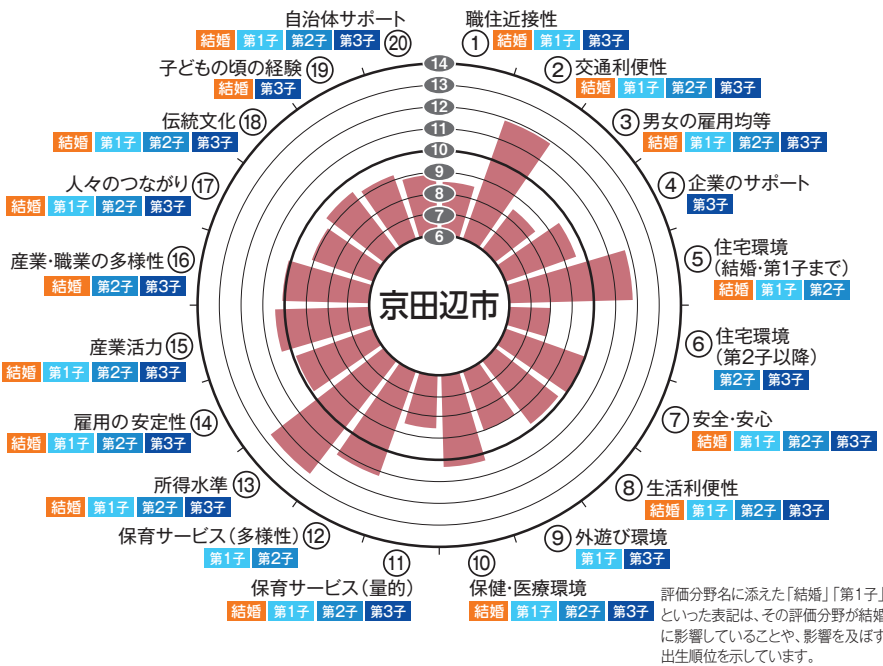
● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、共働き世帯割合（男女の雇用均等）、一戸建て比率（住宅環境（第2子以降））、0-17歳人口一人当たり児童福祉費（自治体サポート）が平均を下回り、公共交通利用率（交通利便性）と雇用者一人当たり雇用者所得（所得水準）が平均値を超えている様子がわかります。

（注）括弧の中は評価分野

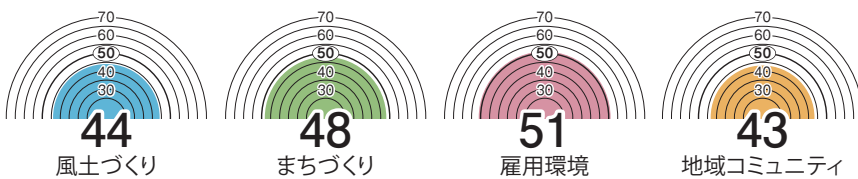
（注）図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

結婚・子育て環境バーチャート
(評価分野のスコア、市町村平均=10)



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



京都・子育てにわたる環境づくり目標
Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

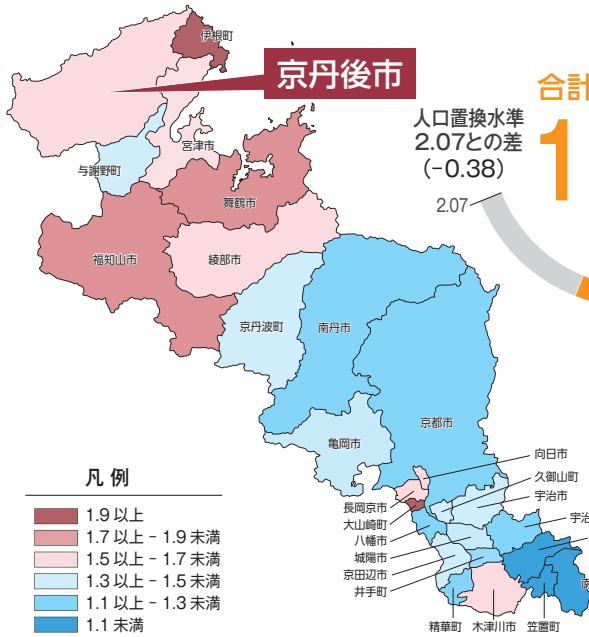
① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切に
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す

- ⑦から始まる地域コミュニティ関連の評価分野が平均を下回り、かつ、③男女の雇用均等、⑥住宅環境（第2子以降）、⑨外遊び環境、⑪保育サービス（量的）等のスコアが低く、山城地域中央部に共通した特徴が表れています。
- また、②交通利便性、⑤住宅環境（結婚・第1子まで）、⑬所得水準、⑮産業活力といった評価分野が平均を上回ることも近隣地域と同様です。京田辺市は、これらの評価分野のスコアが際立って高いことが、近年、出生率が急上昇した背景になっていると考えられます。全般に、子育て世帯の転入は多いものの、子育て環境の充実が追い付いていない様子が窺えます。

京丹後市

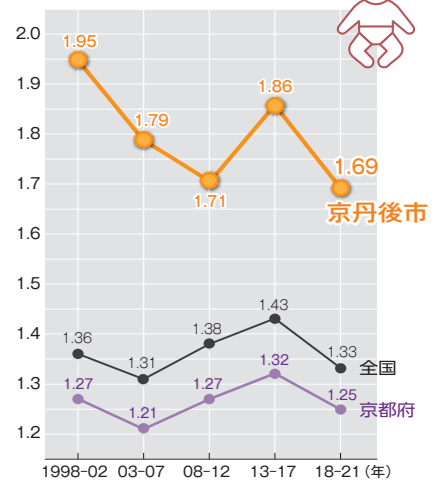
● 出生率の概要

合計特殊出生率
(2018-2021年)

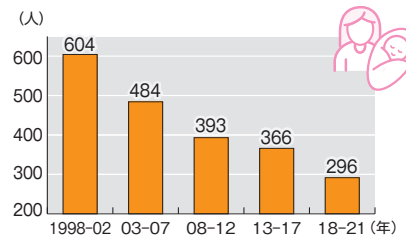


- 2018-21年の京丹後市の合計特殊出生率は1.69と算出され、全国値を0.36ポイント上回ります。人口置換水準との差は-0.38ポイントです。
- 1998-02年の出生率は1.95であり、人口置換水準にも近い値でした。その後は、2013-17年に1.86にいったん回復しますが、おおそ低下傾向にあるとみられます。

合計特殊出生率の推移

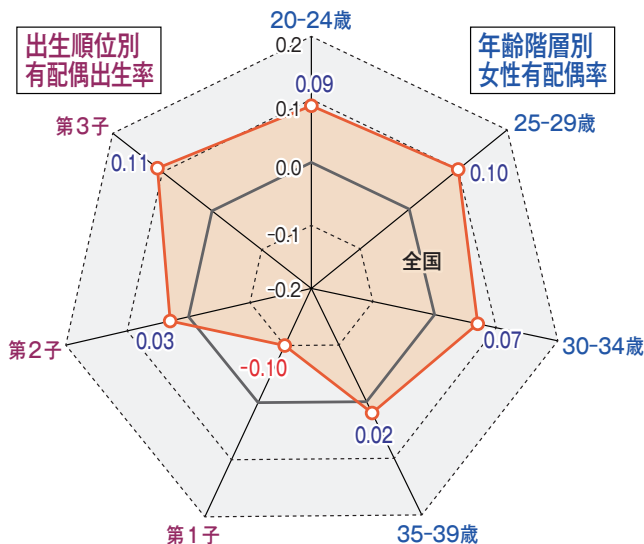


出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



● 実態の見える化

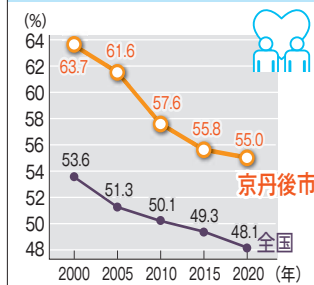
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



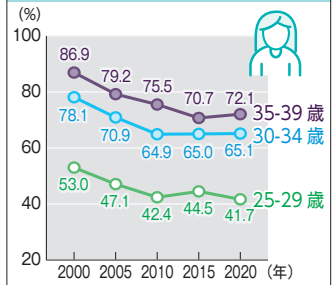
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 出生構造をみると、20歳代の女性有配偶率と第2子・第3子の有配偶出生率が高く、出生率が高い地域によくみられる特徴が表れています。加えて、30歳代の女性有配偶率も全国値を上回っています。
- 一方、第1子有配偶出生率が全国値を大きく下回ること、女性有配偶率の低下が続いていることなどから、今後、一層の出生率低下が懸念されます。

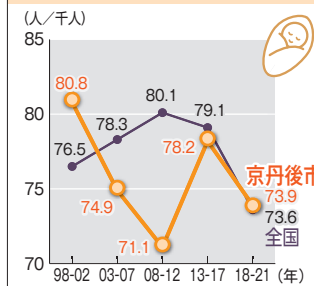
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

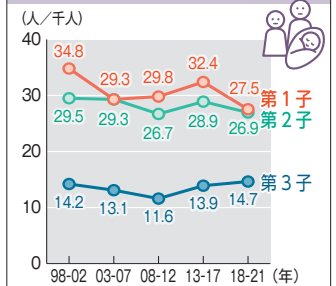


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

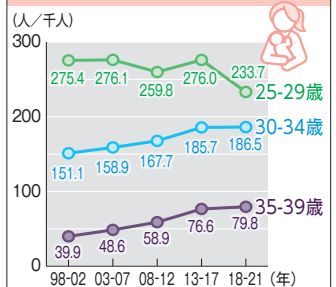


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

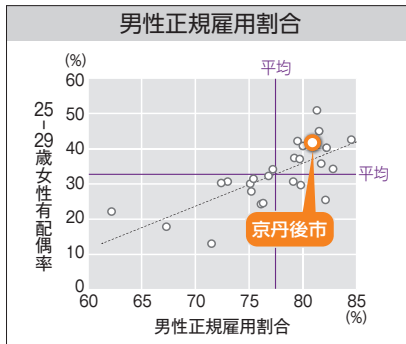
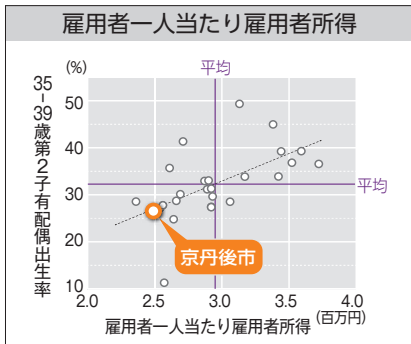
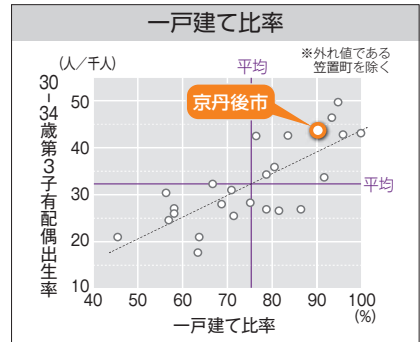
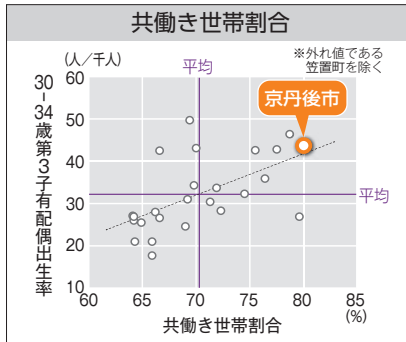
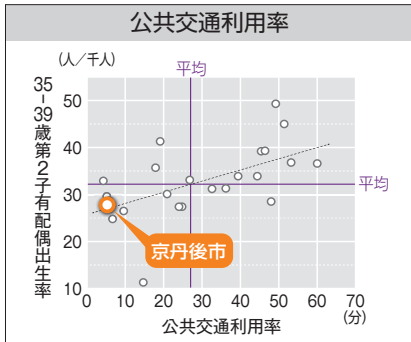
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、共働き世帯割合（男女の雇用均等）、一戸建て比率（住宅環境（第2子以降）、男性正規雇用割合（雇用の安定性）が平均を大きく上回っている様子がわかります。一方、公共交通利用率（交通利便性）、雇用者一人当たり雇用者所得（所得水準）がかなり低くなっています。

（注）括弧の中は評価分野

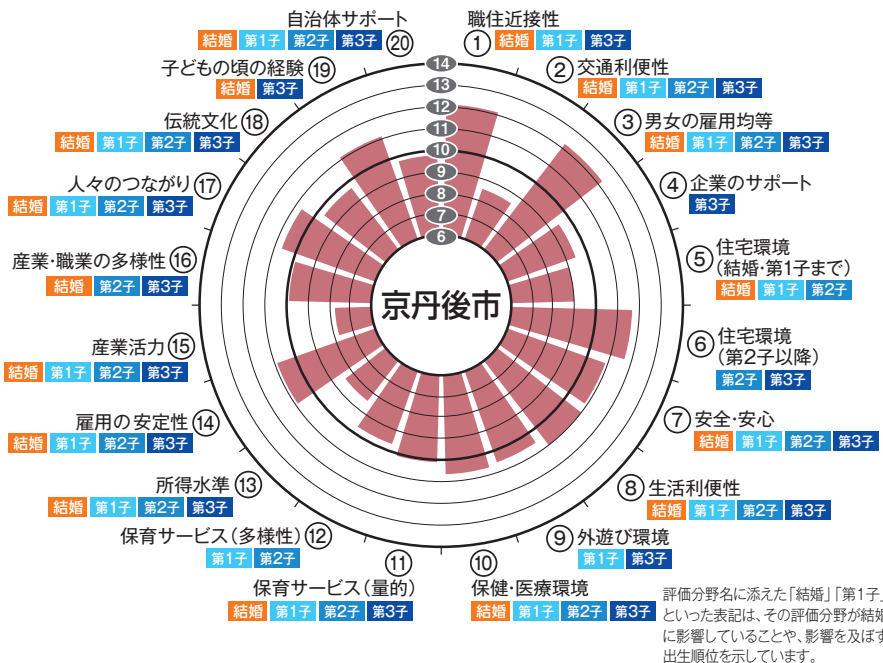
（注）図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

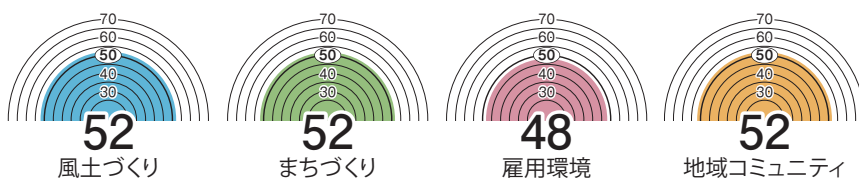
結婚・子育て環境バーチャート
(評価分野のスコア、市町村平均=10)

京都・子育てにわたる環境づくり目標
Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとともにゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切に
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)

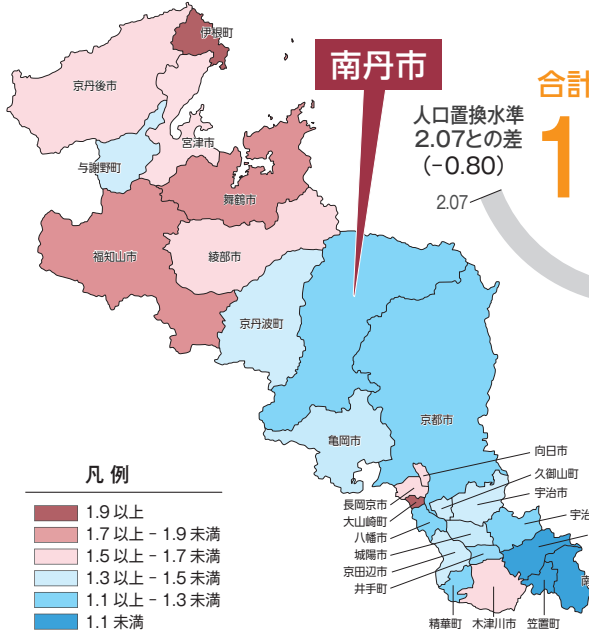


- 出生率が高い中丹・丹後で共通の優位点になっている①職住近接性、③男女の雇用均等、⑥住宅環境（第2子以降）、⑯子どもの頃の経験は、京丹後市でも高い値になっています。また、⑦安全・安心、⑨外遊び環境、⑰人々をつながり等が平均値を上回っています。
- 一方で、⑤住宅環境（結婚・第1子まで）、⑬所得水準、⑮産業活力といった評価分野のスコアが平均を大きく下回り、府北部では優位点と課題になる評価分野がはっきり分かれている地域になっています。

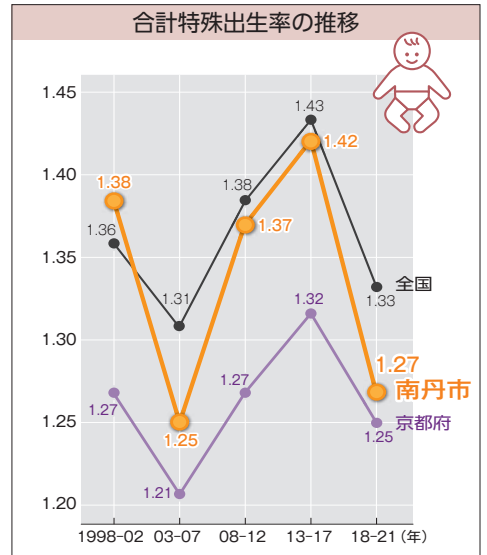
南丹市

● 出生率の概要

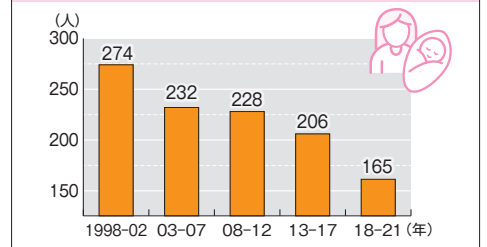
合計特殊出生率
(2018-2021年)



合計特殊出生率の推移



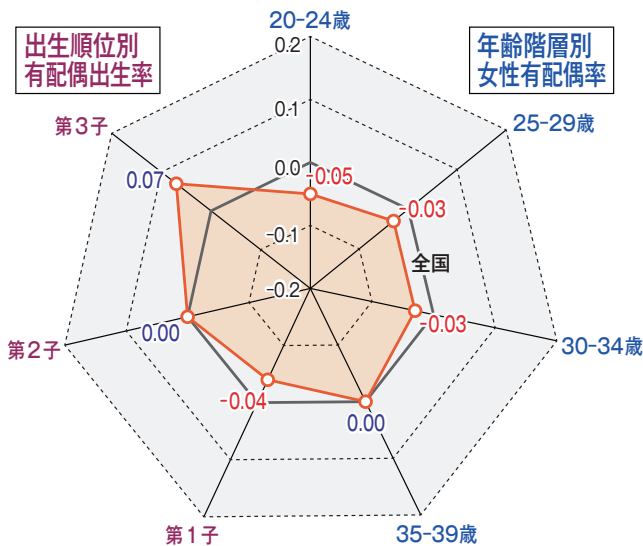
出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



- 2018-21年の南丹市の合計特殊出生率は1.27と算出され、全国値を0.06ポイント下回ります。全国との差はわずかですが、人口置換水準との差は-0.80ポイントに上ります。
- 1998-02年の出生率は全国よりもやや高い水準にありましたが、その後は全国値よりも低い水準で推移しています。

● 実態の見える化

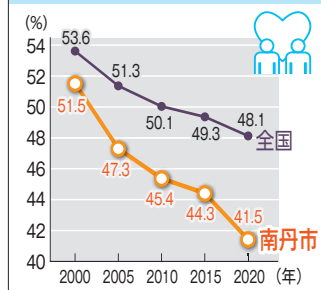
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



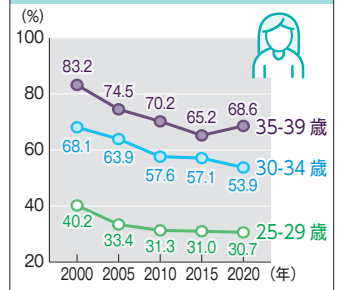
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 出生構造をみると、第3子の有配偶出生率が全国値よりも高くなっていますが、20歳代を中心に女性有配偶率が低く、第1子有配偶出生率も全国値を下回ります。
- 推移をみると、女性有配偶率が全国以上に低下しており、特に30歳代の低下が大きいことから非婚化が進んでいるとみられます。加えて第1子有配偶出生率が低く、一層の出生率低下が懸念されます。

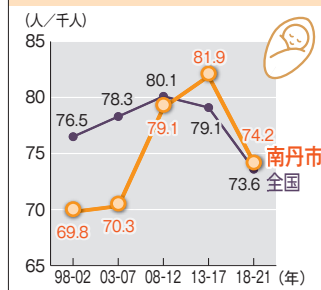
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

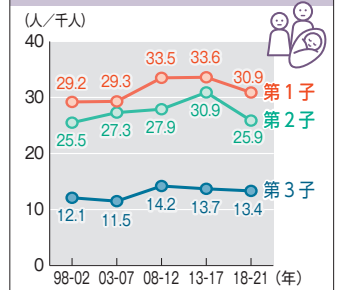


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

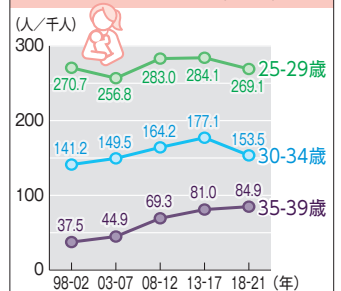


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

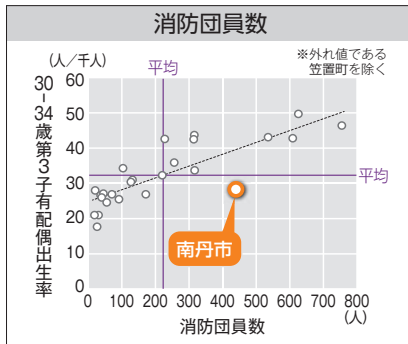
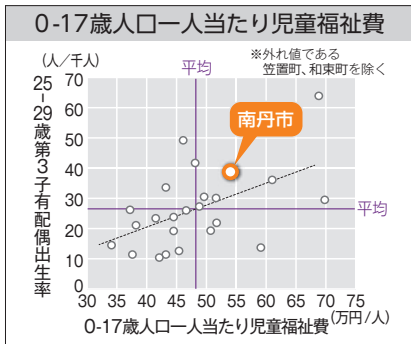
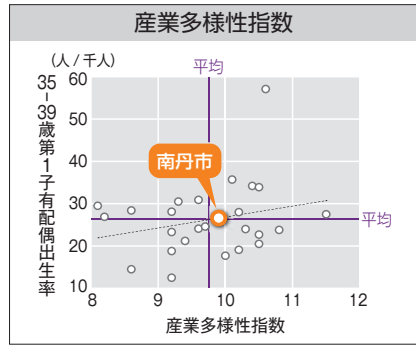
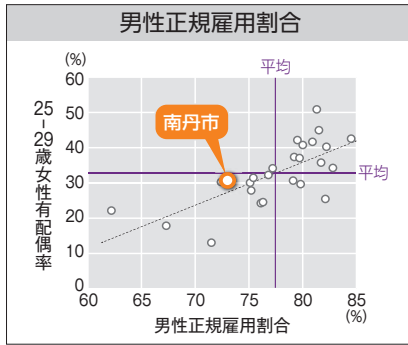
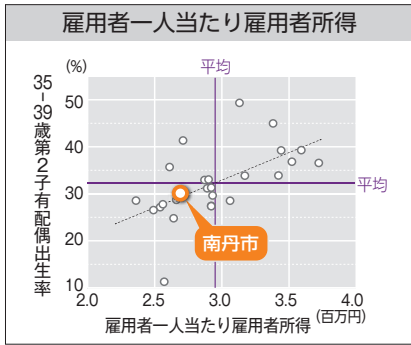
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、0-17歳人口一人当たり児童福祉費(自治体サポート)、消防団員数(人々のつながり)等は平均を上回るものの、雇用者一人当たり雇用者所得(所得水準)、男性正規雇用割合(雇用の安定性)が低くなっている様子がわかります。

(注) 括弧内は評価分野

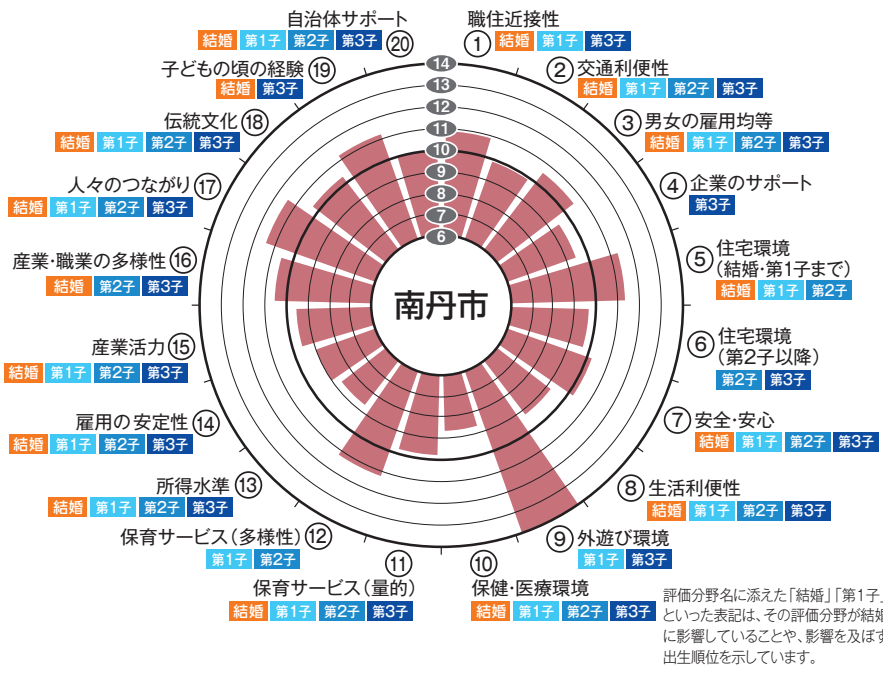
(注) 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

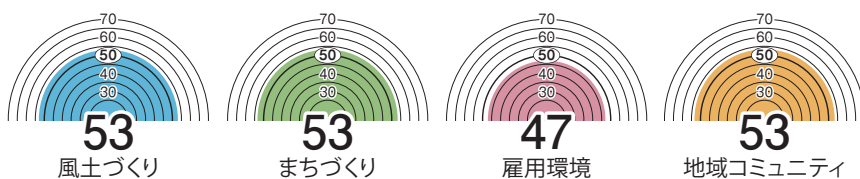
結婚・子育て環境バーチャート (評価分野のスコア、市町村平均=10)

京都・子育てにわたる環境づくり目標 Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとともにゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切に
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)

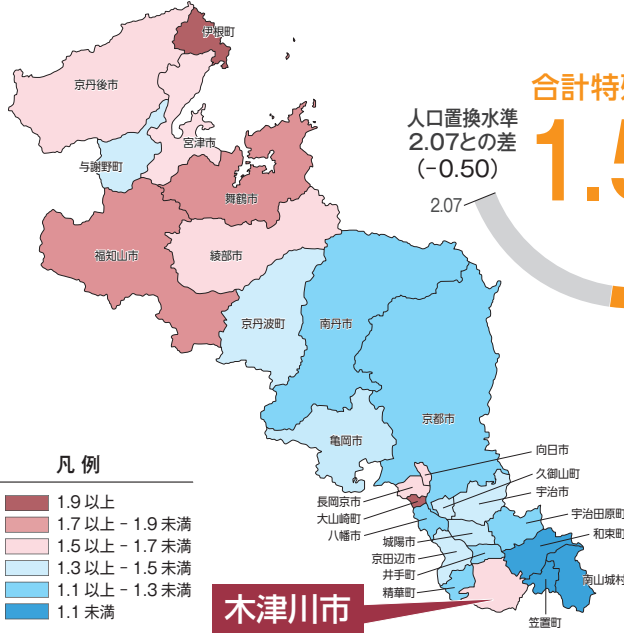


- 出生率が高い中丹地域と同様、①職住近接性、③男女の雇用均等、⑯産業・職業の多様性等が平均を超えています。南丹市は、⑰人々のつながり以降の地域コミュニティに関わる評価分野でもスコアが高いことが特徴です。
- 一方で、⑬所得水準、⑭雇用の安定性、⑮産業活力の低さが目を引きます。また、亀岡市等への通勤者が多い地域ですが、②交通利便性は平均値止まりです。⑨外遊び環境を除けば、出生率への影響力が強く、南丹市の優位点となっている評価分野のスコアが平均をやや上回る程度で、⑬、⑭、⑮が平均を大きく下回っていることが出生率に響いていると推察されます。

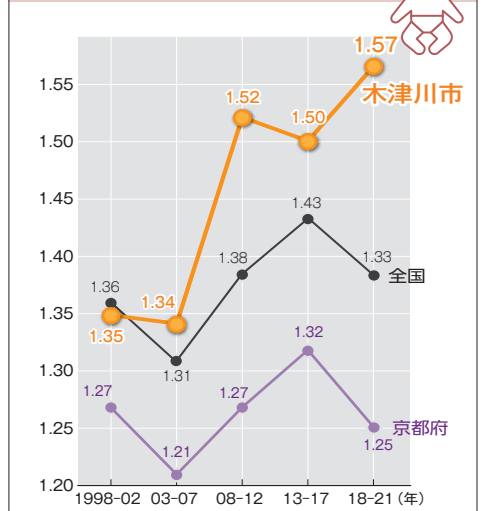
木津川市

● 出生率の概要

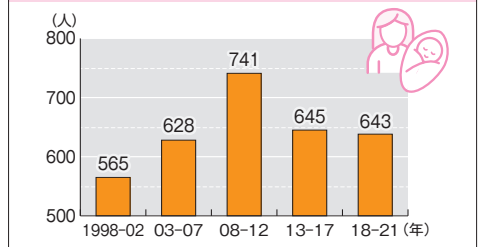
合計特殊出生率
(2018-2021年)



合計特殊出生率の推移



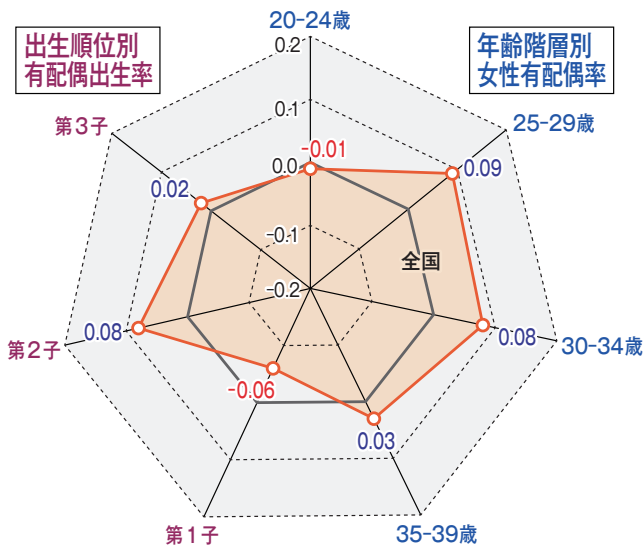
出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



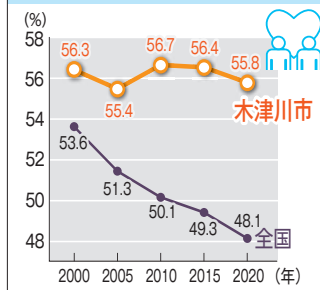
- 2018-21年の木津川市の合計特殊出生率は1.57と算出され、全国値を0.24ポイントと大きく上回ります。人口置換水準との差は-0.50ポイントに上りますが、府南部では出生率が高い地域の一つです。
- 2008-12年以降、出生率は全国を大きく上回る水準で推移しています。

● 実態の見える化

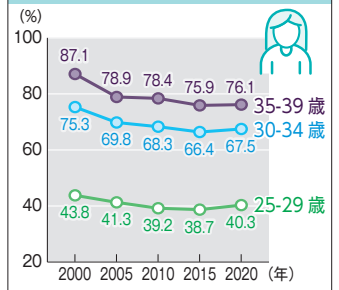
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



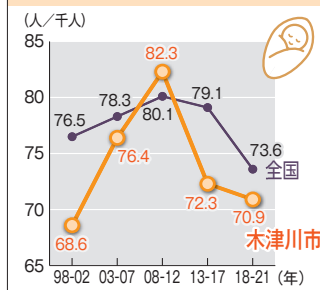
女性有配偶率(15-49歳)の推移



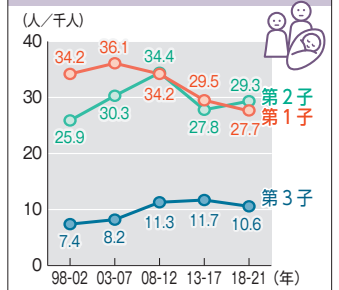
年齢階層別女性有配偶率の推移



有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

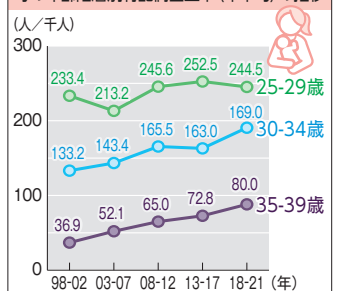


出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

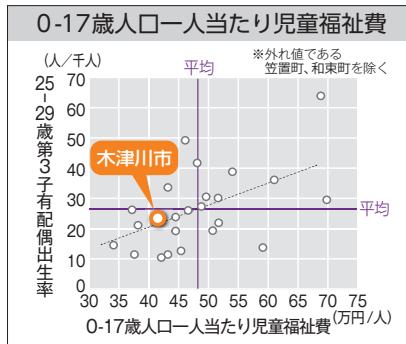
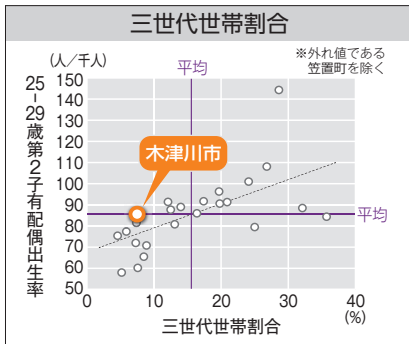
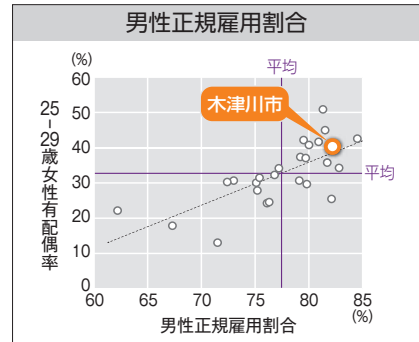
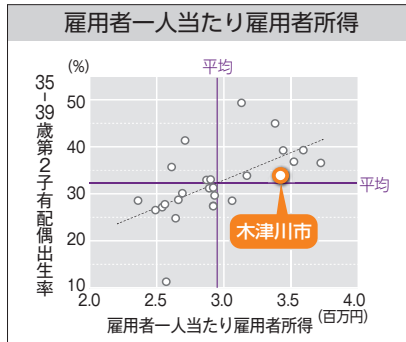
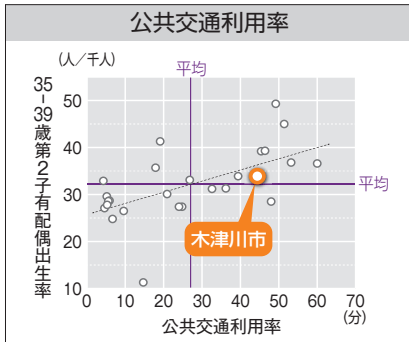
母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 出生構造をみると、25-29歳の女性有配偶率が全国よりも高く、30歳代になっても有配偶率の高さを維持しているところが特徴です。第2子・第3子の有配偶出生率も全国値を上回ります。
- 女性有配偶率がほぼ横ばいで推移する中で、30歳代の有配偶出生率が上昇傾向で推移しています。ただし、第1子有配偶出生率が低く、今後の出生率低下が懸念されます。

● 要因の見える化



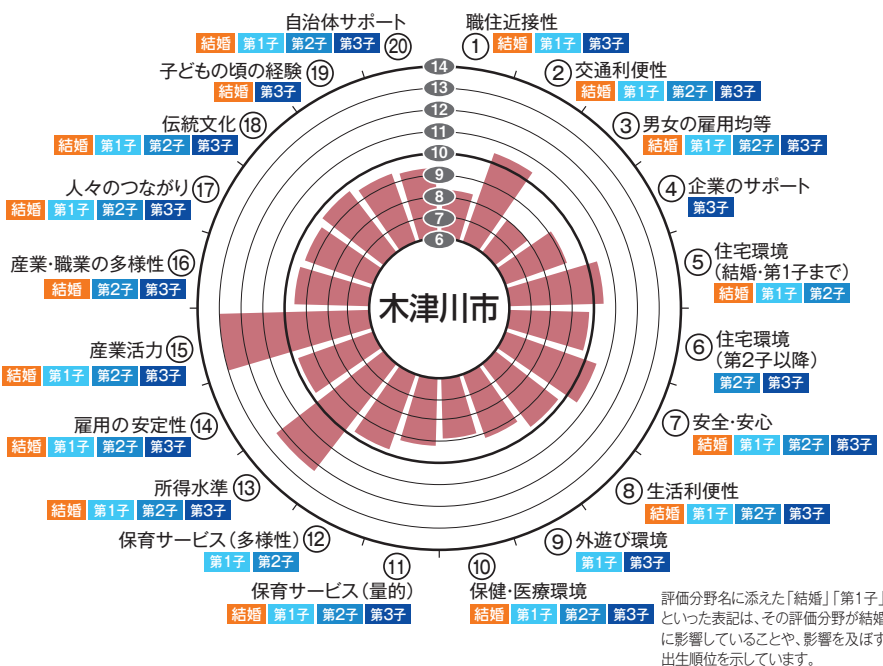
● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、公共交通利用率（交通利便性）、雇業者一人当たり雇業者所得（所得水準）、男性正規雇用割合（雇用の安定性）が平均値を上回ります。一方、三世代世帯割合（子どもの頃の経験）、0-17歳人口一人当たり児童福祉費（自治体サポート）が平均値を下回ります。

(注) 括弧の中は評価分野

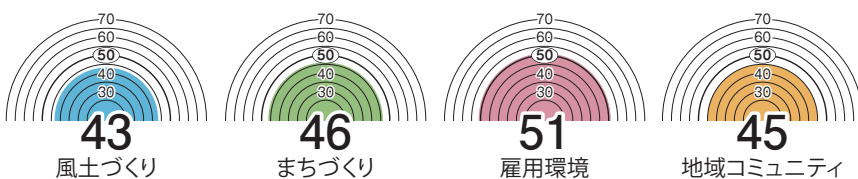
(注) 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

結婚・子育て環境バーチャート (評価分野のスコア、市町村平均=10)



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



京都・子育てにわたる環境づくり目標 Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

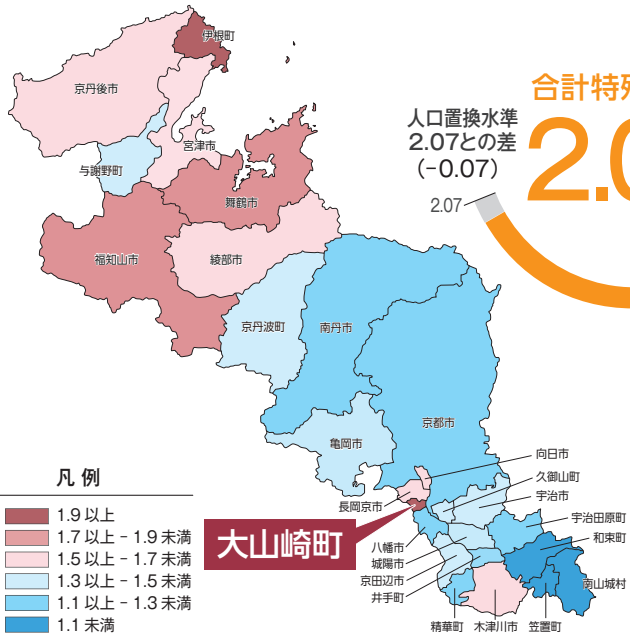
① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切にすまに
⑲ 子どもに豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す

- ⑬所得水準と⑮産業活力が際立って高いスコアとなっているのは、京都市から山城地域のいくつかの市町村にもみられる特徴です。また、⑤住宅環境（結婚・第1子まで）も高スコアであり、若い子育て世帯の流入が出生率を高めていると推察されます。
- 半面、①職住近接性、③男女の雇用均等が平均値を大きく下回るほか、⑨外遊び環境、⑩保健・医療環境、⑪保育サービス（量的）や、⑰人々のつながり以降の地域コミュニティに関わる評価分野が平均以下です。若い子育て世代の流入がある地域として、広範な子育て環境の向上が必要になっていると考えられます。

大山崎町

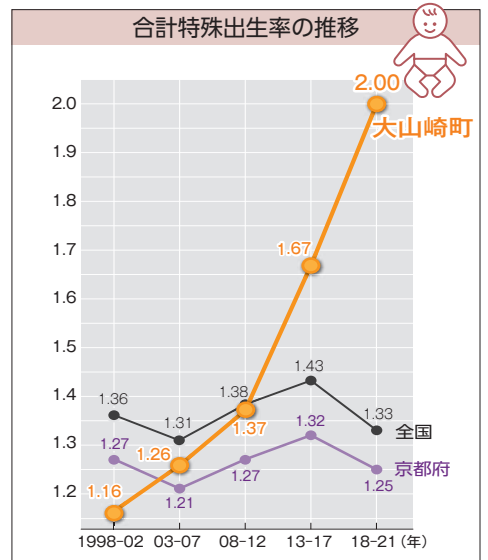
● 出生率の概要

合計特殊出生率
(2018-2021年)

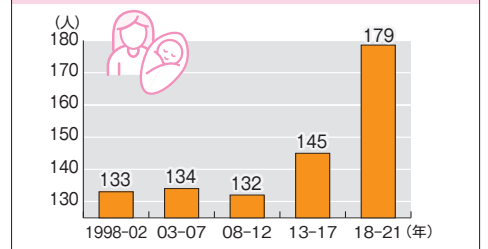


- 2018-21年の大山崎町の合計特殊出生率は2.00と算出され、全国値を0.67ポイントと大きく上回ります。人口置換水準との差はわずか-0.07ポイントであり、府南部では出生率が最も高い地域です。
- また、2003-07年以降の出生率上昇が大きく、1998-02年から2018-21年に大山崎町の出生率は0.84ポイント上昇しました。府内市町村の中で最大の上昇量です。

合計特殊出生率の推移

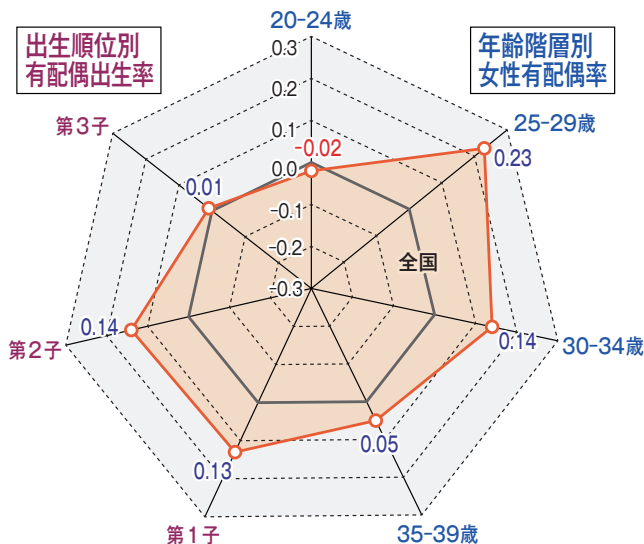


出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



● 実態の見える化

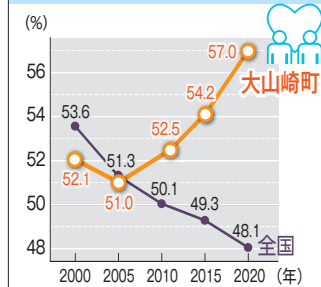
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



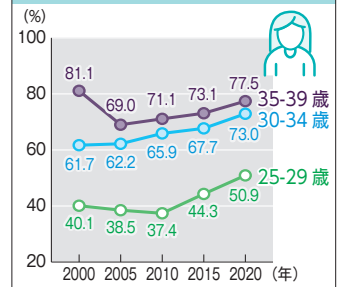
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 出生構造をみると、25-29歳の女性有配偶率が全国値を大きく上回り、30歳代になっても有配偶率の高さを維持しています。また、第1子と第2子有配偶出生率が際立って高くなっています。
- 推移をみると、30歳代だけでなく25-29歳の女性有配偶率が上昇し、有配偶出生率も上昇傾向が続いています。

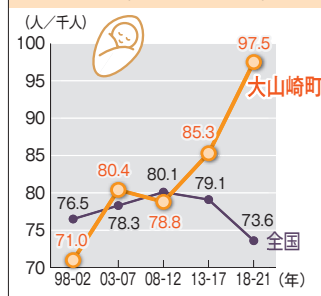
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

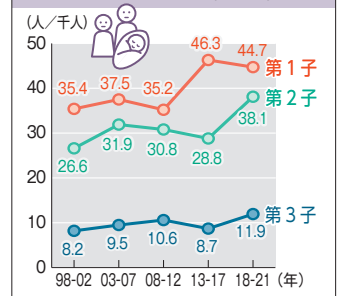


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

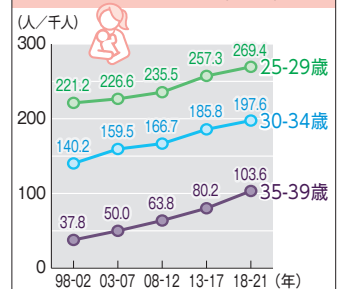


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

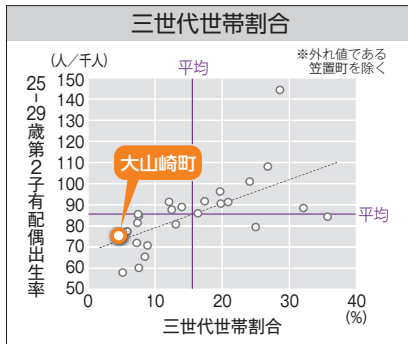
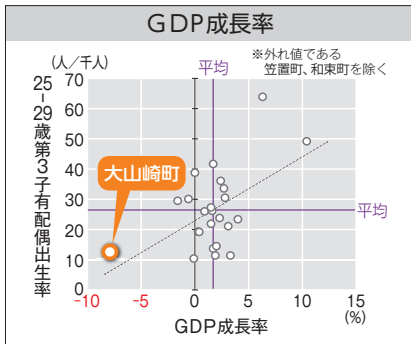
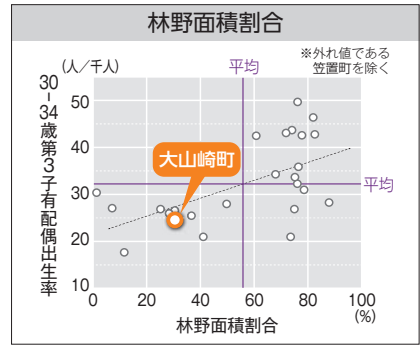
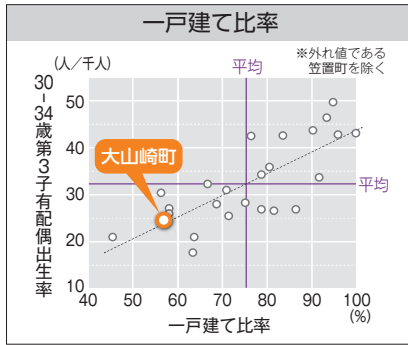
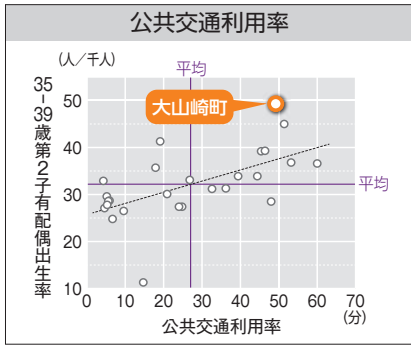
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



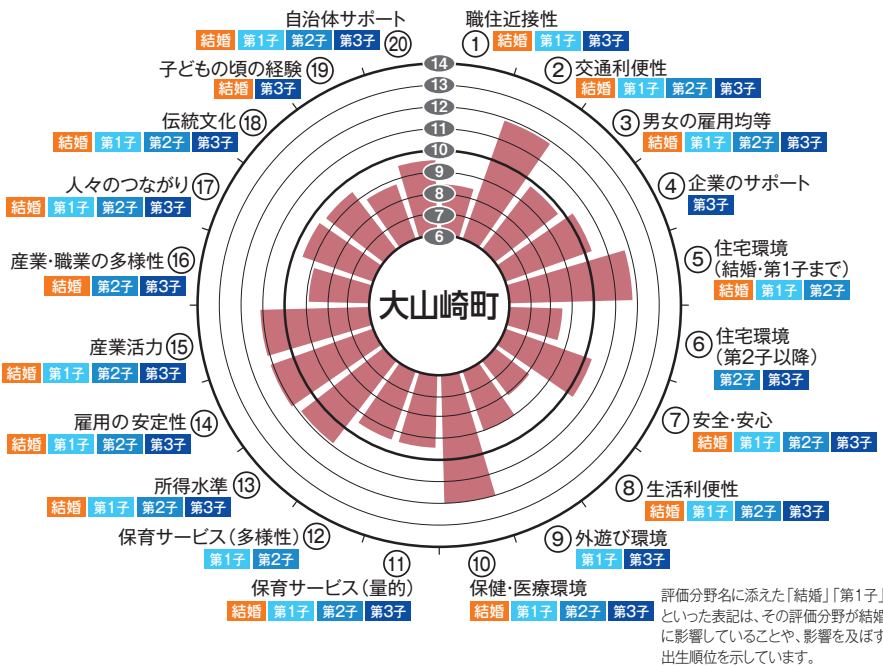
● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、公共交通利用率（交通利便性）が平均値を上回っています。一方で、出生率は高いながらも、一戸建て比率（住宅環境（第2子まで））、林野面積割合（外遊び環境）、GDP成長率（産業活力）、三世帯世帯割合（子どもの頃の経験）といった平均値を下回る指標も多いことがわかります。

(注) 括弧の中は評価分野

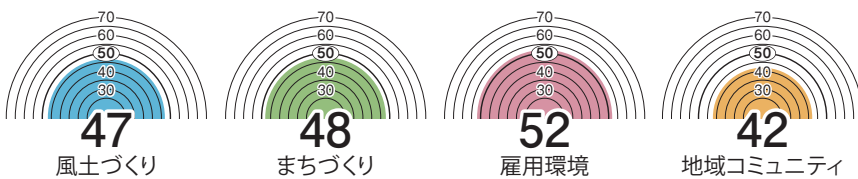
(注) 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

結婚・子育て環境バーチャート (評価分野のスコア、市町村平均=10)



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



- ②交通利便性と⑤住宅環境（結婚・第1子まで）が高スコアであり、町外に通勤する若い子育て世帯の流入が多いことが高い出生率の背景になっているとみられます。また、⑬所得水準、⑭雇用の安定性、⑮産業活力がそろって高いという特徴があります。一方で、同じ産業関連の⑯産業・職業の多様性が平均を大きく下回ります。
- また、⑩保健・医療環境は際立って高いスコアですが、⑧生活利便性、⑨外遊び環境、⑩⑪の保育サービス関連が低くなっています。加えて、⑰人々のつながり以降の地域コミュニティ関連の多くが平均以下です。若い子育て世代の流入が出生率を押し上げつつも、広範な子育て環境に課題を設定することができます。

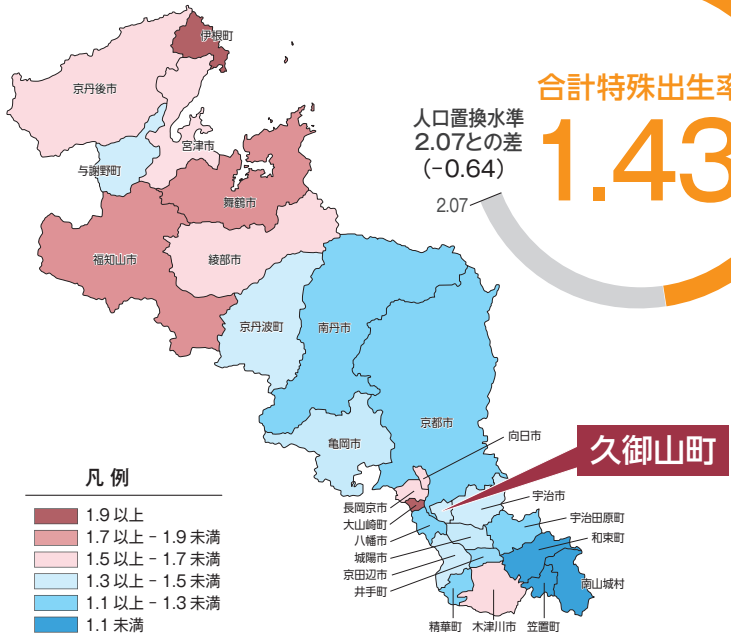
京都・子育てにわたる環境づくり目標 Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切にすまに
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す

久御山町

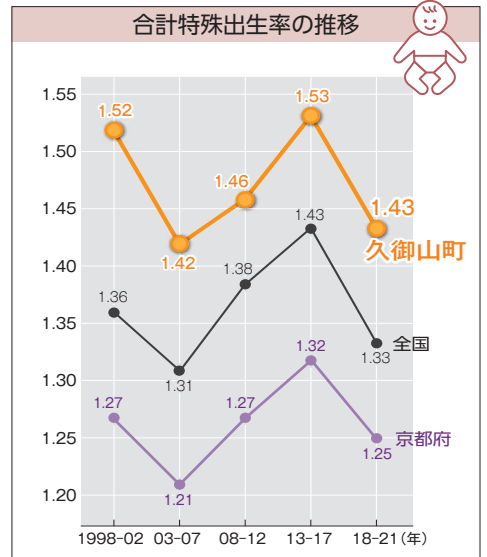
● 出生率の概要

合計特殊出生率
(2018-2021年)

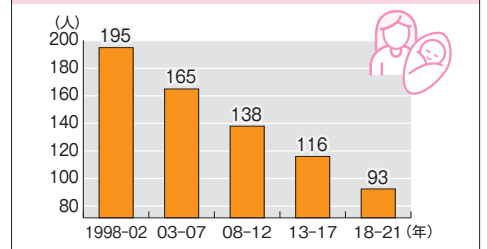


- 2018-21年の久御山町の合計特殊出生率は1.43と算出され、全国値を0.10ポイント上回ります。府南部では出生率が高い地域ですが、人口置換水準との差は-0.64ポイントに上ります。
- 変化をみると、1998-02年から、全国の出生率を0.1ポイント以上上回りながらほぼ全国と同様の増減で推移しています

合計特殊出生率の推移

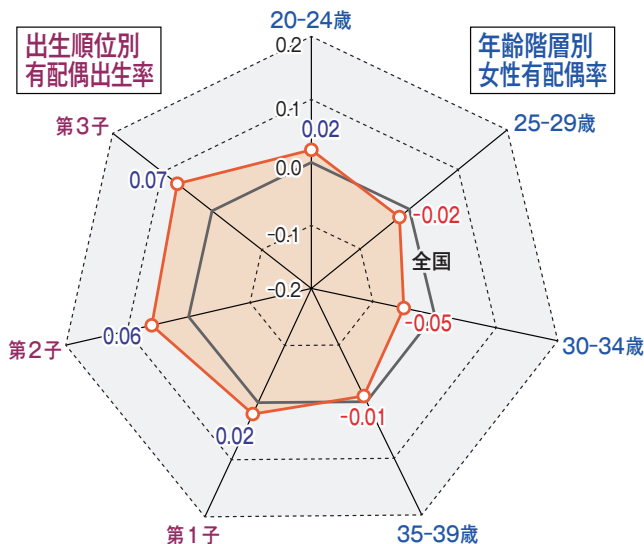


出生数(母の年齢15-49歳、年平均)の推移



● 実態の見える化

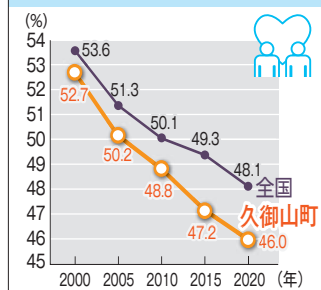
出生構造レーダーチャート
(2018-2021年、全国=0)



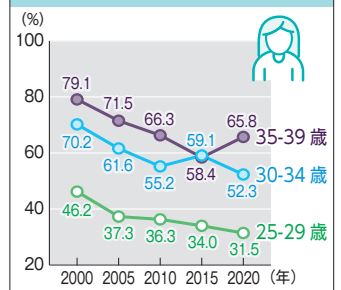
※レーダーチャートの数値は、各市町村の合計特殊出生率と全国値との差を出生構造に分解したものであり、各軸の合計(省略した出生構造を含む)は、合計特殊出生率の全国値の差と等しくなります。このため、合計特殊出生率との差が、どの出生構造によって生じたかがわかります。

- 出生構造をみると、20-24歳を除き、女性有配偶率は全国値をやや下回っています。他方、有配偶出生率が第1子、第2子、第3子ともに全国を上回り、合計特殊出生率の高さに寄与しています。
- 推移をみると、女性有配偶率には全国以上の低下がみられ、年齢階層別の有配偶出生率は25-29歳と35-39歳で低下しました。第1子有配偶出生率は全国をやや上回る程度で、今後の出生率低下が懸念されます。

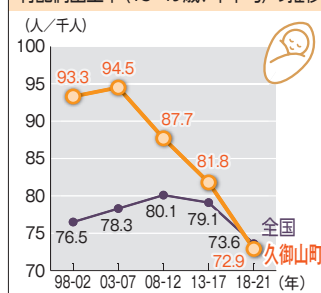
女性有配偶率(15-49歳)の推移



年齢階層別女性有配偶率の推移

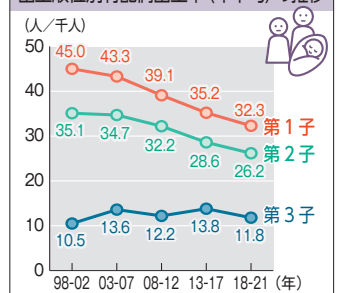


有配偶出生率(15-49歳、年平均)の推移

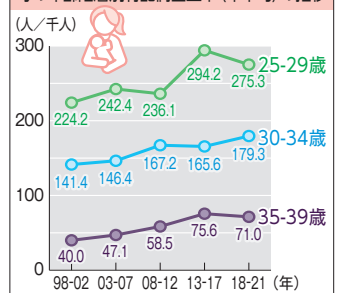


(注) 有配偶出生率は有配偶女性千人当たり出生数である

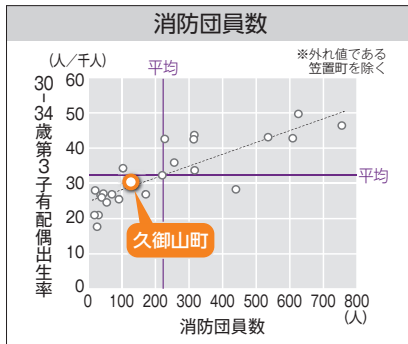
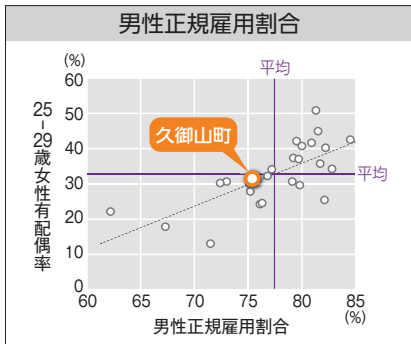
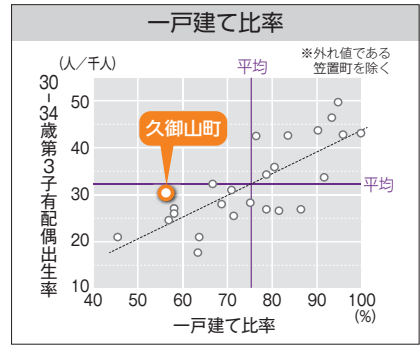
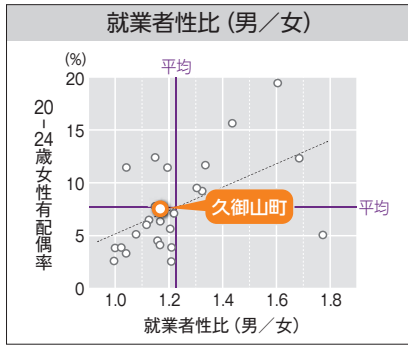
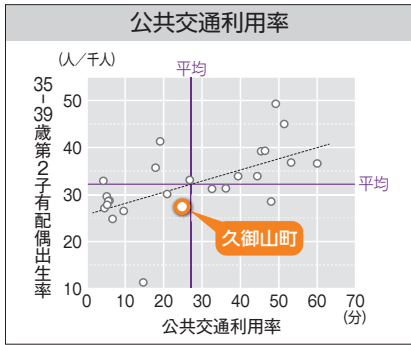
出生順位別有配偶出生率(年平均)の推移



母の年齢階層別有配偶出生率(年平均)の推移



● 要因の見える化



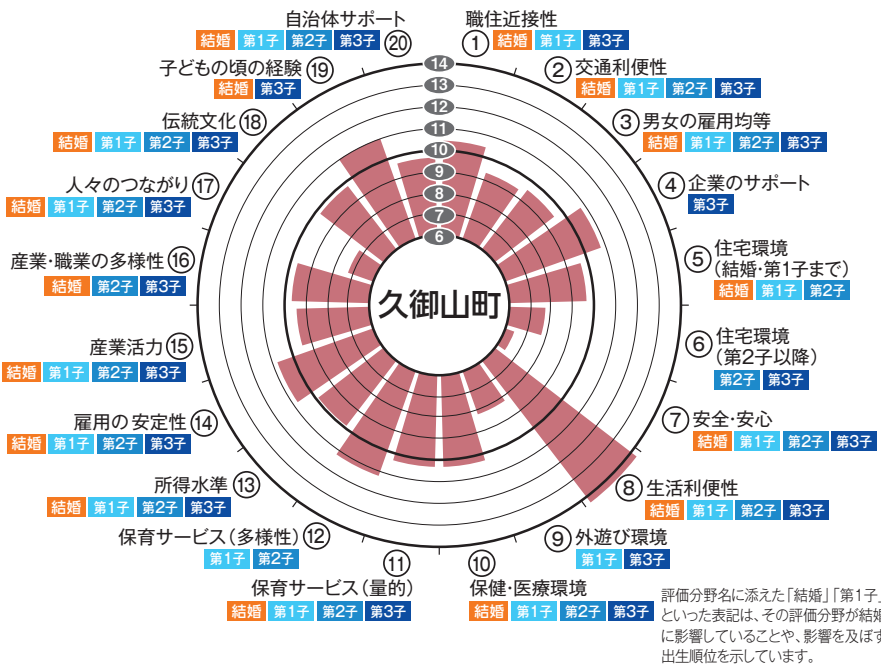
● 相関が明瞭に表れている評価要素と出生構造の散布図をみると、公共交通利用率（交通利便性）、就業者性比（男／女）（男女の雇用均等）が概ね府内市町村の平均に近い値となっています。一方、一戸建て比率（住宅環境（第2子以降）、男性正規雇用割合（雇用の安定性）、消防団員数（人々のつながり）は平均を下回っています。

(注) 括弧の中は評価分野

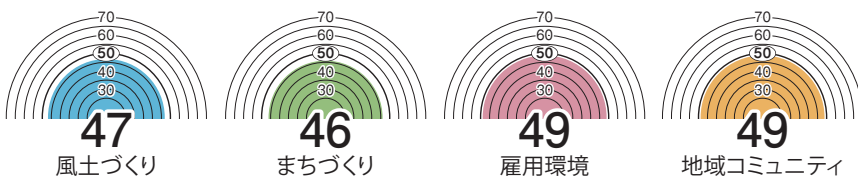
(注) 図中の縦線・横線は市町村平均を示し、データの年次は資料編を参照

● 目標の見える化

結婚・子育て環境バーチャート
(評価分野のスコア、市町村平均=10)



子育て環境指標のスコア (市町村平均=50)



京都・子育てにあなたな環境づくり目標
Warm-hearted Environmental Goals for Children and Family

① 通勤を楽にして生活にゆとりを	② 公共交通で便利な暮らしを	③ 男女がともに働く職場づくりを
④ 企業も子育てをサポートしよう	⑤ 若い夫婦が求めやすい住まいを	⑥ 子育て世帯にはゆとりある住まいを
⑦ 地域ぐるみで子育てを見守ろう	⑧ 生活の便利さで時間のゆとりを	⑨ 野外でいきいき遊べるように
⑩ 安心して産み育てられる保健・医療を	⑪ 誰もが利用できる保育サービスを	⑫ 必要な保育サービスを必要の人に
⑬ 働きがいとともにゆとりある所得を	⑭ 雇用に将来の見通しを	⑮ 産業の力で新しい仕事をつくりだす
⑯ 誰もがやりたいことに挑戦できる仕事づくりを	⑰ 人々がつながる子育てにやさしいまちに	⑱ 人々をつなぐ伝統文化を大切にすまに
⑲ 子どもに心豊かなふれあい体験を	⑳ 子育てのセーフティネットを充実しよう	色の濃い目標は、評価分野のスコアが市町村平均以上であることを示す

- ⑧生活利便性の高さが際立っており、町内の大型ショッピングセンターの立地が反映されていると考えられます。一方、⑦安全・安心と⑰人々のつながりの低さが目を引きますが、これは主に人口当たり刑法犯認知件数の多さのためです。刑法犯認知件数は3年間の平均値を用いているものの、人口規模が小さい市町村では極端な数値となる評価分野が現れることがあります。子ども人口当たり交通事故件数も多く、データ分析と地域の実情を擦り合わせていくことが必要です。
- これらの評価分野を除くと、①職住近接性のほか、⑩保健・医療環境、⑪⑫の保育サービス、⑭雇用の安定性、⑲子どもの頃の経験が平均値を上回り、⑤住宅環境（結婚・第1子まで）、⑬、⑮、⑯の産業関連が概ね平均的であることが、出生率の高さに寄与していると考えられます。